令和６年度看護研究交流センター

# 活動報告書

令和７年５月

公立大学法人新潟県立看護大学
看護研究交流センター

# 巻頭言

まだ肌寒い日があるかと思えば、暖かな日もあり、この繰り返しが春を連れてくるのだと、気象予報士の方が仰っていました。皆様がこの報告書を開いているころは、サクラの花びらが舞っているかもしれません。

さて、当交流センターの 2024 年度の活動を振り返りますと、コロナ禍前の活気を取り戻しつつあると感じています。4 部門の活動を下記に記します。

「地域社会貢献部門」の活動として、“いきいきサロン”のお知らせを『広報じょうえつ』にも掲載し、地域の皆さまにさらに身近に感じていただけるよう努めています。6 回のサロンには、毎回 70 名から 110 名の方が参加してくださいました。

「看護職学習支援部門」では、5 年ぶりに対面で、看護研究支援コース 2 講座と看護現場に生かすコース 3 講座を開催しました。また、公開講座のうち 4 講座は、バーチャルカレッジの動画教材として公開しました。

2024 年 10 月 19 日、「地域課題研究開発部門」は“地域課題研究・上越地域看護研究の合同発表会”を開催し、実行委員を含め 101 名の方にご参加いただきました。

昨年度に発足した「専門性の高い看護職育成部門」では、『上越圏域看護部長会の活動支援』と『専門看護師のネットワーク支援』に取り組んでまいりました。これらの活動は、皆様のご協力のもと、円滑に進められており、心より感謝申し上げます。

2025 年度も、各部門の活動が実り多いものとなるよう、引き続き皆様からのご意見をいただきながら、柔軟に取り組んでまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 3 月吉日

看護研究交流センター長　岡村典子

# 令和６年度看護研究交流センター活動報告書

## 目　次


巻　　頭　　言　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

**Ⅰ．事業実施報告**

事　　業　　概　　要　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

事　　業　　費　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

公開講座等実施報告　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

事業広報活動　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

**Ⅱ．部門報告**

地域社会貢献部門　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

看護職学習支援部門　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

地域課題研究開発部門　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　20

特別研究部門　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

専門性の高い看護職育成部門　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

**Ⅲ．事務局報告**

出前講座実施及び結果報告　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28

**Ⅳ．地域課題研究助成及び研究成果報告**

令和６年度地域課題研究助成報告　　・・・・・・・・・・　32

2023 年度（2022 年度を含む）地域課題研究成果報告　　・・・・・・・・・・　34

# Ⅰ．事業実施報告

# 事　業　概　要

新潟県立看護大学では、大学と地域の交流の場として「看護研究交流センター」を平成 14 年 4 月に開設しました。

大学の建学の精神である「ゆうゆう・くらしづくり」に基づき、大学の教育・研究の成果を地域へ提供し、活動を通じて地域と大学が共に成長していくための橋渡しを担っています。

令和 5 年 10 月に、新しく「専門性の高い看護職育成部門」が加わり 5 部門となりました。地域の皆様からの要望をもとに、5 つの部門の活動を柱にして、大学の教職員が情報を発信しています。

## Ⅰ　目的

看護研究交流センターは、看護科学における教育と研究の成果を地域に還元し、県民及び保健医療福祉関係者に対する学術支援ならびに生涯学習・研修支援活動を通して、県内の保健・医療・福祉の向上に貢献することを目的としています。

## Ⅱ　各部門の主な活動内容

1. **地域社会貢献部門**【いきいきサロン】【看護大・上教大連携公開講座】

　地域の医療者・大学と地域住民の交流会である「いきいきサロン」と「上越教育大学との連携公開講座」を開催し、地域住民への学習の機会を提供している。

2. **看護職学習支援部門**【看護職学習支援公開講座】【バーチャルカレッジ】

　現職の看護師や潜在看護師のリカレント教育を推進する事業「どこでもカレッジプロジェクト」を主体に、県内の看護職への学びの機会を提供している。

3. **地域課題研究開発部門**

【地域課題研究公募】【地域課題研究発表会】【上越地域看護研究発表会】

　県内の保健・医療・福祉に携わる看護職を対象に本学教員と共同で行う研究を公募し、その成果報告会となる地域課題研究発表会や、上越地域の看護研究の発表の場である上越地域看護研究発表会の開催(上越地域振興局健康福祉環境部と共催)を担っている。

4. **特別研究部門**

　一般市民の健康の保持・増進や看護職の質的向上の推進の一助として貢献することを目的に、県内の保健医療看護上の課題に対応した研究課題を設定して取り組んでいる。

5. **専門性の高い看護職育成部門**

　専門性の高い看護職員の育成に向け、令和 5 年 10 月に発足した。上越圏域における専門性の高い看護職員の育成と定着を図るため、上越圏域看護部長会の活動支援を行うほか、新潟県看護協会と連携して「専門看護師フォローアップ研修」を開催した。

## Ⅲ　事務局

1. **出前講座**

　本学教員の研究成果を地域へ還元する地域貢献活動の一環として実施している。

2. **卒業生支援**

　卒業生への支援事業として、相談窓口の開設、小規模会合に対する助成を行っている。

## Ⅳ　令和６年度看護研究交流センター構成員

| 区　分 | 氏　名 | 職　名 |
|---|---|---|
| | センター長　岡　村　典　子 | 基礎看護学教授 |
| 地域社会貢献部門 | 部門長　永　吉　雅　人 | 情報科学准教授 |
| | 高　林　知　佳　子 | 地域看護学教授 |
| | 八　巻　ち　ひ　ろ | 母性看護学・助産学講師 |
| | 石　岡　幸　恵 | 成人看護学講師 |
| | 伊　藤　美　由　紀 | 母性看護学・助産学助教 |
| | 黒　﨑　美　月 | 母性看護学・助産学助教 |
| | 野　村　優　希 | 地域看護学助手 |
| | 佐　藤　咲　子 | 成人看護学助手 |
| | 佐　藤　さ　ゆ　り | 地域看護学助手 |
| | 金　井　系　未 | 基礎看護学助手 |
| 看護職学習支援部門 | 部門長　伊　豆　上　智　子 | 看護管理学教授 |
| | 小　林　綾　子 | 成人看護学准教授 |
| | 前　川　絵　里　子 | 地域看護学講師 |
| | 山　岸　美　奈　子 | 基礎看護学助教 |
| | 上　田　　恵 | 母性看護学・助産学助教 |
| | 池　田　よ　し　江 | 成人看護学助教 |
| | 五十畑麻奈美 | 母性看護学・助産学助教 |
| | 黒　﨑　美　月 | 母性看護学・助産学助教 |
| | 佐　藤　咲　子 | 成人看護学助手 |
| | 金　井　系　未 | 礎看護学助手 |
| 地域課題研究開発部門 | 部門長　樺　澤　三　奈　子 | 成人看護学准教授 |
| | 野　口　裕　子 | 地域看護学准教授 |
| | 石　岡　幸　恵 | 成人看護学講師 |
| | 野　澤　祥　子 | 小児看護学助教 |
| | 金　井　香　織 | 老年看護学助教 |
| | 五十畑麻奈美 | 母性看護学・助産学助手 |
| | 野　村　優　希 | 地域看護学助手 |
| | 佐　藤　さ　ゆ　り | 地域看護学助手 |
| 特別研究部門 | 部門長　岡　村　典　子 | 基礎看護学教授 |
| | 伊　豆　上　智　子 | 看護管理学教授 |
| | 山　田　恵　子 | 小児看護学准教授 |
| | 樺　澤　三　奈　子 | 成人看護学准教授 |
| | 原　　等　子 | 老年看護学准教授 |
| | 永　吉　雅　人 | 情報科学准教授 |
| | 久　我　　誠 | 事 務 局 長 |
| 専門性の高い看護職育成部門 | 部門長　岡　村　典　子 | 基礎看護学教授 |
| | 石　田　和　子 | 成人看護学教授 |
| | 小　長　谷　百　絵 | 老年看護学教授 |
| | 伊　豆　上　智　子 | 看護管理学教授 |
| | 原　　等　子 | 老年看護学准教授 |
| | 樺　澤　三　奈　子 | 成人看護学准教授 |
| センター事務局 | 筑　山　芳　江 | 看護専門職員 |
| | 岸　田　友　希 | 事 務 職 員 |
| | 松　原　友　美 | 事 務 職 員 |

# 事　　業　　費

令和６年度看護研究交流センター事業予算額　4,000,000 円

（単位：円）

| | |
|---|---|
| **Ⅰ　部門配分予算額** | |
| 地域社会貢献部門 | 131,000 |
| 看護職学習支援部門 | 219,000 |
| 地域課題研究開発部門 | 406,000 |
| 特別研究部門 | 200,000 |
| 専門性の高い看護職育成部門 | 200,000 |
| 小　計 | 1,156,000 |
| **Ⅱ　地域課題研究助成** | |
| 2023 年度助成　〔1.～8.研究代表者（所属）〕 | (繰越額) |
| 1.　山崎　正和　（長岡赤十字病院）※2022 年度研究助成 | 66,117 |
| 2.　箕輪　明美　（長岡赤十字病院） | 62,225 |
| 3.　佐藤　七重　（豊栄病院豊栄訪問看護ステーション） | 36,698 |
| 4.　外川　友子　（長岡赤十字病院） | 20,976 |
| 5.　瀧澤　いずみ　（新潟信愛病院） | 41,130 |
| 6.　志賀　木綿子　（総合リハビリテーションセンターみどり病院） | 30,340 |
| 7.　大澤　寿子　（新潟県立柿崎病院） | 48,861 |
| 8.　柳澤　美直代　（藤田企画グループホーム癒しの家）※研究期間延長 | 75 |
| 小　計 | 306,422 |
| 2024 年度助成　〔1.～5.研究代表者（所属）〕 | (初年度予算額) |
| 1.　村越　結衣　（長岡赤十字病院） | 100,000 |
| 2.　源川　雅斗　（長岡赤十字病院） | 100,000 |
| 3.　霜田　章子　（厚生連上越総合病院） | 100,000 |
| 4.　星野　貴美子　（長岡赤十字病院） | 100,000 |
| 5.　水澤　真由美　（新潟県立中央病院） | 100,000 |
| 小　計 | 500,000 |
| **Ⅲ　事務局** | |
| 運営管理費 | 2,037,578 |
| 合　計 | 4,000,000 |

# 令和６年度看護研究交流センター公開講座等実施報告

（人）

| Ⅰ　市民公開講座 いきいきサロン | | | |
|---|---|---|---|
| | 日 時 | テーマ | 参加者数 |
| 1 | 5 月 16 日(木)<br>18:30～19:30 | 学長特別講演：わたし・あなた・みんなが<br>－ いのちと向き合うがん看護の“今”－ | 115 |
| 2 | 6 月 20 日(木)<br>18:30～19:30 | 花粉症と上手に付き合っていくには | 80 |
| 3 | 7 月 18 日(木)<br>18:30～19:30 | 危険な「やせ薬」から子供の知能まで～甲状腺について | 76 |
| 4 | 9 月 19 日(木)<br>18:30～19:30 | 自分のこころに寄り添うストレスマネジメントの秘訣 | 94 |
| 5 | 10 月 17 日(木)<br>18:30～19:30 | 糖尿病性腎症にならないための生活習慣 | 101 |
| 6 | 11 月 21 日(木)<br>18:30～19:30 | 帯状疱疹について －予防と治療－ | 90 |
| 合　計　　6 回 | | | 556 |
| Ⅱ　令和６年度地域社会貢献セミナー | | | |
| 9 月 27 日（金）18：00～19：30　認知症ってなんだろう　当事者とともに考えてみよう | | | 148 |
| Ⅲ　看護職学習支援公開講座 | | | |
| | 日 時 | テーマ | 参加者数 |
| 看護研究支援コース | 5 月 11 日(土)<br>13:00～16:00 | さあはじめよう看護研究 ①<br>「看護研究のテーマをみつけよう」 | 27 |
| | 6 月 22 日(土)<br>13:00～16:00 | さあはじめよう看護研究 ②<br>「文献検索の基本と文献検索の実際～医中誌 Web を中心に～」 | 13 |
| | 7 月 27 日(土)<br>13:00～16:00 | さあはじめよう看護研究 ③「看護研究方法の理解」 | 19 |
| | 9 月 28 日(土)<br>13:00～16:00 | さあはじめよう看護研究 ④「研究計画書の書き方」 | 12 |
| 看護現場に活かすコース | 7 月 6 日(土)<br>13:30～16:00 | 解剖生理から根拠を押さえたフィジカルアセスメント<br>～毎日の検温を“日課”から“ケア”に変える！～ | 15 |
| | 10 月 12 日(土)<br>13:30～16:00 | もう一度はじめから 根拠がわかる実践！採血 | 5 |
| | 11 月 9 日(土)<br>13:30～15:30 | 在宅医療・介護現場で発生しやすいスキン-テアと皮膚損傷<br>～予防から医療連携まで | 31 |
| | 11 月 30 日(土)<br>13:30～15:30 | 臨床に活かすための薬の知識 | 9 |
| 合　計　　8 回 | | | 131 |
| Ⅳ　県立看護大学・上越教育大学連携公開講座 | | | |
| 7 月 13 日(土)<br>13:30～15:30 | | 自分らしく、すこやかに生きるコツ | 82 |
| Ⅴ　看護研究発表会 | | | |
| 10 月 19 日(土)<br>12:30～16:20 | | 令和６年度第 14 回上越地域看護研究発表会・2024 年地域課題研究（2023 年度助成研究）合同発表会 | 101 |
| **総　計　　17 回** | | | **1,018** |

# 事　業　広　報　活　動

## Ⅰ　情報公開

情報公開についての活動は以下のとおりである。

1. 令和 5 年度看護研究交流センター活動報告書：令和 6 年 6 月発行
2. 2024 年度看護研究交流センターガイドブック：2,500 部発行
3. 2024 年度看護研究交流センター出前講座(パンフレット)：1,500 部発行
4. 看護研究交流センターホームページ

## Ⅱ　広報活動

令和 6 年度の広報活動は以下のとおりである。

| 掲載内容 | 掲載・配布先 |
|---|---|
| 1. 令和 6 年度市民公開講座 いきいきサロン<br>各 1 回～6 回 | 上越市「広報上越」5 月号 |
| | 上越タイムス「くびきの創信」 |
| | 上越 NIC・新潟日報「おはよう通信」 |
| | 上越 ASA ニュース |
| | 上越よみうり伝言板 |
| | JCV(上越ケーブルビジョン)MJ インフォメーション |
| | 上越市有線放送（10 月で終了） |
| 2. 令和 6 年度県立看護大学・上越教育大学<br>連携公開講座（会場：上越教育大学） | がんぎネット(上越地域包括ケア推進情報 Web サイト) |
| | チラシ配布　500 部 |
| 3. 令和 6 年度看護職学習支援公開講座<br>各 1 回～8 回 | 新潟日報「県からのお知らせ」（3 講座） |
| | JCV(上越ケーブルビジョン)MJ インフォメーション |
| 4. 令和 6 年度度第 14 回上越地域看護研究発表会・2024 年地域課題研究（2023 年度助成研究）発表会 | 新潟日報「県からのお知らせ」 |
| | JCV(上越ケーブルビジョン)MJ インフォメーション |
| | がんぎネット(上越地域包括ケア推進情報 Web サイト) |
| 5. 2024 年度出前講座 | 上越タイムス「くびきの創信」 |

## Ⅲ　取材による掲載記事

取材による記事の掲載は以下のとおりである。

| 掲載内容 | 掲載先 |
|---|---|
| いきいきサロン第 1 回学長特別講演 | 5 月 18 日の上越タイムス P.4 |
| | 5 月 24 日の新潟日報 P.17 |

# Ⅱ．部門報告

## 地域社会貢献部門

永吉雅人、高林知佳子、八巻ちひろ、石岡幸恵、伊藤美由紀、黒﨑美月、
野村優希、佐藤咲子、佐藤さゆり、金井系未

### Ⅰ　本部門の事業目的

地域社会貢献部門では、地域住民の方々が健康でいきいきとした生活をするために、地域の保健・医療職および看護大学の教員から、健康に関するテーマについて話題提供をしてもらい、交流を図る機会として「いきいきサロン」を開催する。加えて、「上越教育大学と新潟県立看護大学との包括的な連携・協力に関する協定」（平成 22 年 7 月 2 日締結）に基づき、地域社会に貢献することを目的としてお互いの大学が持つ資源を活用して公開講座を開催する。

### Ⅱ　事業の概要

#### 1. いきいきサロン

1）開催状況

今年度は、コロナ禍が明けたことにより、マスク着用を任意として、事前申込み制にて定員 100 名として開催した。各回 76～115 名の参加者となり、盛況のうちに終了した。情報発信先については、今年度より「広報上越」への掲載を始めている。

令和 6 年度の参加者数は 556 人であり、平成 21 年度から開始して以降、いきいきサロンの総参加者数は 9,031 人となった。

表 1　開催日時およびテーマ・講師と参加人数

| 回 | 開催日 | テーマ | 講師 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|
| 第 1 回 | 5 月 16 日(木) | わたし・あなた・みんなが　―いのちと向き合うがん看護の“今”― | 新潟県立看護大学 学長<br>神田清子 先生 | 115 |
| 第 2 回 | 6 月 20 日(木) | 花粉症とうまく付き合っていくには | 新潟県立中央病院<br>耳鼻咽喉科　医師<br>吉岡邦暁 先生 | 80 |
| 第 3 回 | 7 月 18 日(木) | 危険な「やせ薬」から子供の知能まで　～甲状腺について～ | 新潟県立看護大学　教授<br>内分泌内科医　石井角保 先生 | 76 |
| 第 4 回 | 9 月 19 日(木) | 自分のこころに寄り添うストレスマネジメントの秘訣 | 富山大学附属病院　看護師<br>安達寛人 先生 | 94 |
| 第 5 回 | 10 月 17 日(木) | 糖尿病性腎症にならないための生活習慣 | 吉岡内科クリニック<br>糖尿病看護認定看護師<br>武田織江 先生 | 101 |
| 第 6 回 | 11 月 21 日(木) | 帯状疱疹について<br>―予防と治療― | 上越地域医療センター病院<br>麻酔科医師　川﨑政紀 先生 | 90 |

2）参加者のアンケート結果

(1) 参加者の年代

70 歳代が 199 人(37.1%)と最も多く、次いで 60 歳代が 150 人(28.0%)、50 歳代 101 人(18.8%)であった。一方、40 歳代以下は 33 人(6.2%)であった。

(2) これまで参加した回数

「10 回以上」が 231 人(43.1%)と最も多く、次いで「1～5 回」が 113 人(21.1%)、「6～10 回」が 101 人(18.8%)の順であった。一方、「初めて」が 86 人(16.0%)であった。

(3) 周知方法（複数回答）

「ガイドブックの送付」によって参加した人が 179 人（33.4%）と最も多く、次いで「ポスター・チラシ」によって参加した人が 109 人(20.3%)、「新聞広告」96 人(7.9%)、「知人・友人」65 人(12.1%)、「市広報誌」57 人(10.6%)の順であった。

(4) 参加理由（複数回答）

「テーマに興味・関心があったから」が 358 人（66.8%）と最も多く、次いで「講師の話が聞きたかったから」が 130 人(24.3%)、「健康のため」が 127 人(23.7%)、「毎回参加しているから」が 124 人(23.1%)の順であった。

(5) 講師の話についての感想

全体では、「非常に良かった」と回答した人は 276 人(51.5%)、「良かった」と回答した人は 183 人(34.1%)であり、全体の 85.6%を占めた。

(6) 今後、とりあげてほしいテーマ（3 つまでの複数回答）

「認知症」が 125 人(23.3%)と最も多く、次いで「心の病気」118 人（22.0%）、「血圧・心臓の病気」95 人(17.7%)、「歯科」87 人(16.2%)の順に多かった。その他の自由記載には、防災、レジリエンス、服薬など様々なテーマがあげられていた。

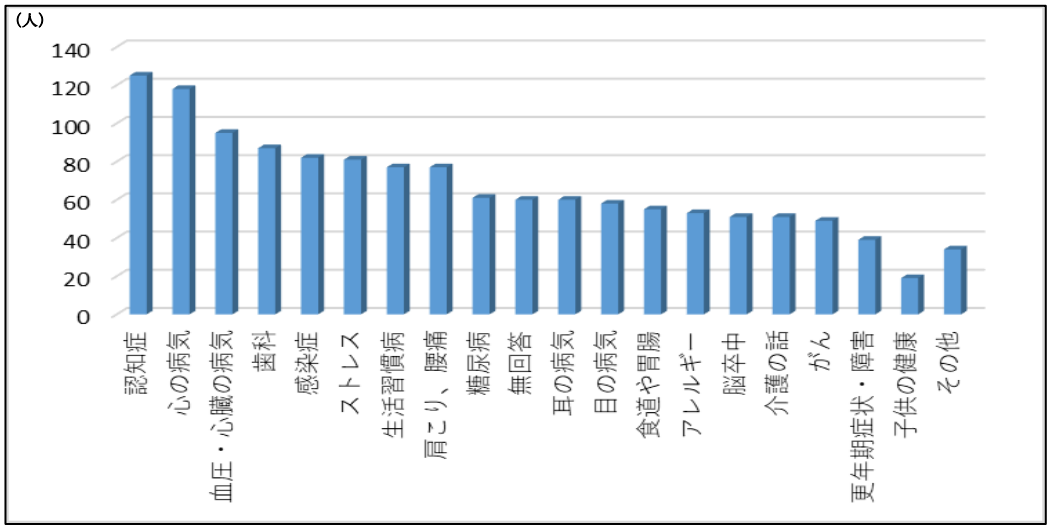


図 1　今後とりあげてほしいテーマ（3 つまでの複数回答）

3) 企画および運営

(1) 企画実行メンバー

地域社会貢献部門のメンバー11 名が企画から運営までを行った。チラシの作成・発送、新聞広告への掲載依頼、講師資料の印刷等は看護研究交流センター事務局が行った。

また、当日の運営では学生アルバイト 4 名が会場準備や受付・参加者の誘導を行った。

(2) 広報活動

看護研究交流センターの案内、リーフレットの発送、看護大いきいきサロン通信の発行（2 回）、講座のチラシの作成と配布、大学ホームページでの情報公開、広報上越、NIC かわら版、上越よみうり、上越 ASA ニュースへの掲載、事前収録による有線放送、上越ケーブルビジョン（JCV）の PR コーナーの活用を行った。

(3) 講師謝礼

学外の講師には 1 回 1 万円および交通費を支払った。

(4) 参加者への対応

感染対策としてのマスク着用は任意、事前申込み制とした。

資料については、昨年同様、看護研究交流センターのロゴマークがついたクリアファイルに入れて配布した。

**2. 看護大・上教大連携公開講座**

今年度の看護大・上教大連携公開講座は、当番校である上越教育大学において、令和 6 年 7 月 13 日（土）13:30～15:30(2 時間)に開催した。メインテーマは、昨年度から引き続き「自分らしく、すこやかに生きるコツ」とし、上越教育大学から池川茂樹先生、留目宏美先生、新潟県立看護大学から小長谷百絵先生にご登壇いただいた。

参加者は、82 名であり、70 歳代が 50.6%と最も多く、次いで 60 歳代、50 歳代、40 歳代であった。20 歳～30 歳代の参加はなかった。男女比は、男性 30.4%、女性 69.6%であった。住居は、上越市が 84.8%、妙高市が 11.4%、糸魚川市・柏崎市が 1.3%であった。講座の参加理由は、興味・関心のあるテーマだったが最も多く、講師の話は、非常に良かった・良かったが 94.9%と大変満足感の高い結果であった。

**3. 市民公開講座**

地域社会貢献セミナーとして、「認知症ってなんだろう 当事者とともに考えてみよう」をテーマに、令和 6 年 9 月 27 日（金）18:00～19:30（1.5 時間）において、新潟県立看護大学名誉教授（初代学長）の中島紀惠子先生と一般社団法人「セカンド・ストーリー」 代表の山中しのぶ氏を迎え、対談形式による講演を開催した。参加者は 148 名であった。なお、市民公開講座の来年度の予定はない。

## 4. 令和 6 年度の評価と今後の課題

1）いきいきサロン

いきいきサロンについては、令和 6 年度の参加人数は、令和 5 年度よりも 86 人減少し 556 人（平均 92.7 人/回）であった。講師の話では、非常に良かった・良かったが 85.6%と大変満足感の高い結果であった。なお、今年度配布資料がなかったためにスライドをスマホで撮影している参加者がいたため、それ以降、講師に可能な範囲で配布資料を準備いただきたいこと、参加者には会場内での撮影は遠慮いただきたいことを伝えることとした。来年度もこの対応を実施していく。

今後の課題としては、参加者アンケートを踏まえて、引き続き幅広い年齢層の方に参加いただけるよう講座内容を検討することが挙げられる。

2）看護大・上教大連携講座

「看護大・上教大連携講座」については、令和 6 年度の開催は、上越教育大学で行われた。今年度の連携講座は、昨年度に引き続きメインテーマを「自分らしく、すこやかに生きるコツ」とし、幅広い年齢の参加者に来ていただくことを目的として開催した。講師の話は、非常に良かった・良かったが 94.9%と大変満足感の高い結果であったものの、20 歳～30 歳代の参加はなかった。

次年度のテーマおよび開催方法や講師の選定等について、上越教育大学の担当者とオンライン会議を持ち、以下の内容を決定した。

令和 7 年度　看護大・上教大連携講座
幹事校　新潟県立看護大学
日程　　令和 7 年 7 月 5 日（土）13:30～15:30（2 時間）
テーマ　「自分らしく、すこやかに生きるコツ」
講師　　上越教育大学　　光永伸一郎　先生
　　新潟県立看護大学　山田恵子　先生
　　新潟県立看護大学　舩山健二　先生

今後の課題としては、次年度は本学が当番校であるため、資料の作成および印刷、郵送などについて実施していく。担当講師および上教大の関係者と会議を持ち運営を進めていく。

資料１－令和６年度いきいきサロン通信第１号

公立大学法人　新潟県立看護大学　看護研究交流センター　地域社会貢献部門

「いきいきサロン」は、健康に関心のある地域の皆様と、
看護や医療等の専門家との交流の場として、平成21年度から開催してきました。
今回の通信では先日開催した第１回～第２回の内容と、第３回以降の予定をご紹介します。
今後も皆様からのご要望や、健康に関する世の中の動き等に合わせ
いきいきと生活していくことを応援するテーマを準備しお待ちしております。

**第１回　5月16日**

学長特別公演
わたし・あなた・みんなが
-いのちと向き合う がん看護の“今”-

新潟県立看護大学
学長
神田 清子 先生

本年度初回のサロンは、115名と大変多くの方にご参加いただきました。
皆様からのアンケートでは、『前向きに自分らしく今を大切にして生活しようと思った』『生と死について考えさせられた』『がんやがん患者との向き合い方を考えるきっかけとなった』といったお声をたくさんいただきました。

**第２回　6月20日**

花粉症と上手に付き合っていくには

新潟県立
中央病院
耳鼻咽喉科医師
吉岡 邦暁 先生

本年度２回目のサロンには、80 名の方にご参加いただきました。
皆様からのアンケートでは、『予防方法、最新の治療が分かってよかった』『舌下免疫療法について聞けて良かった』『鼻水、鼻づまりの症状にはいろいろあることが分かった』といったお声をいただきました。

**【今後のいきいきサロン】各回 18：30～19：30　本学ホールにて** ※事前申込制、参加費無料

| 日時 | 講師 | テーマ |
|---|---|---|
| 7/18(木) | 新潟県立看護大学教授<br>内分泌内科医師　石井 角保 先生 | 危険な「やせ薬」から子供の知能まで<br>～甲状腺について |
| 9/19(木) | 富山大学附属病院<br>看護師　安達 寛人 先生 | 自分のこころに寄り添う<br>ストレスマネジメントの秘訣 |
| 10/17(木) | 古岡内科クリニック<br>糖尿病看護認定看護師　武田 織枝 先生 | 糖尿病腎症にならないための生活習慣 |
| 11/21(木) | 上越地域医療センター<br>上越地域帯状疱疹治療センター長　川崎 政紀 先生 | 帯状疱疹について-予防と治療- |

資料１－令和６年度いきいきサロン通信第２号

公立大学法人　新潟県立看護大学　看護研究交流センター　地域社会貢献部門

「いきいきサロン」は、健康に関心のある地域の皆様と、
看護や医療等の専門家との交流の場として、平成21年度から開催してきました。
今回の通信では先日開催した第３回～第４回の内容と、第５回以降の予定をご紹介します。
今後も皆様からのご要望や、健康に関する世の中の動き等に合わせ
いきいきと生活していくことを応援するテーマを準備しお待ちしております。

**第３回　7月18日**

危険な「やせ薬」から子供の知能まで
～甲状腺について

新潟県立看護大学
生物・医学教授
石井 角保 先生

本年度３回目のいきいきサロンは、76名の方にご参加いただきました。
皆様からのアンケートでは、『甲状腺の話はテレビ等で聞く機会が少ないので話を聞けて良かった。』『もしかしたら、と考える機会になった。』といったお声をいただきました。

**第４回　9月19日**

自分のこころに寄り添う
ストレスマネジメントの秘訣

富山大学附属病院
看護師
安達 寛人 先生

本年度４回目のいきいきサロンは、94名の方にご参加いただきました。
皆様からのアンケートでは、『ストレスは悪いものだけではないと考えることができた。』『ちょっとしたことで悩み落ち込んでしまうので対処法を試してみたい。』といったお声をいただきました。

**今後も皆様のご参加をお待ちしております。**

**【今後のいきいきサロン】各回 18：30～19：30　本学ホールにて** ※事前申込制、参加費無料

| 日時 | 講師 | テーマ |
|---|---|---|
| 10/17(木) | 古岡内科クリニック<br>糖尿病看護認定看護師　武田 織枝 先生 | 糖尿病腎症にならないための生活習慣 |
| 11/21(木) | 上越地域医療センター病院<br>上越地域帯状疱疹治療センター長　川崎 政紀 先生 | 帯状疱疹について-予防と治療- |

# 看護職学習支援部門

伊豆上智子、小林綾子、前川絵里子、山岸美奈子、上田恵、
池田よし江、佐藤咲子、五十畑麻奈美、黒﨑美月、金井系未

## Ⅰ　本部門の事業目的

新潟県内、特に上越地域の現職の看護師や潜在看護師の資質向上を目指し、様々な学習および研修の機会を提供する。このことにより看護職の資質向上をはかり、県民のヘルスケアの充実を目指す。

## Ⅱ　2024 年度の事業概要

看護職学習支援部門は、公開講座とバーチャルカレッジの 2 つの活動を通して、現職の看護師や潜在看護師のリカレント教育を推進する事業「どこでもカレッジプロジェクト」を実施している。今年度は、看護職向け公開講座の開催（8 回）、バーチャルカレッジの運営、どこカレ通信の発行（2 回）を行った。

### １．看護職学習支援公開講座

今年度の公開講座は、看護研究支援コースと看護現場に活かすコースの 2 コース計 8 講座で構成した（表 1 参照）。2023 年 5 月の新型コロナウイルス感染症 5 類移行を受けて、今年度から演習を含む 5 講座で本学を会場に集合研修を再開した。Web 会議システム Zoom を使用したオンライン講義をライブ配信した 3 講座(表 1 講座名※が該当)は、参加者に講座学習資料と Web 会議システム Zoom の使用手順を示した資料を事前送付して講座当日の電話対応窓口を整え、各講座の運営担当部門員が公開講座運営マニュアルを用いて対応した。

看護研究支援コース 4 講座は延べ 71 名が受講した。「文献検索の基本と文献検索の実際～医中誌 Web を中心に～」は、文献データベースの演習を希望する受講者の声を受けて、本学の小林綾子先生の講義と本学図書館専門司書の吉原貴子氏による演習で構成した。講師の指導を受けながら体験した文献検索が好評で、各自の関心に合わせてさらに文献検索を進める研修への要望が寄せられた。看護研究支援コースの受講から地域課題研究開発部門の地域課題研究応募につなぐ取り組みとして、今年度の公開講座の開講時期は「看護研究方法の理解」を 7 月下旬に、「研究計画書の書き方」を 9 月下旬にそれぞれ変更した。その結果、今年度の看護研究支援コース受講者が応募した 1 題が 2025 年度地域課題研究に採択された。

看護現場に活かすコースは、看護職の関心が集まるテーマや日常の実践に活用しやすい内容で構成している。今年度の 4 講座は延べ 60 名が受講した。「解剖生理から根拠を押さえたフィジカルアセスメント～毎日の検温を“日課”から“ケア”に変える！～」は、本学の山岸美奈子先生と相澤達也先生に担当していただいた。日常業務である検温時の観察項目を中心にアセスメントの視点を学び直す内容が好評で、シミュレーターを用いた聴診を含めた演習の満足度が高かった。「もういちどはじめから 根拠がわかる実践！採血」は、新潟県立中央病院臨床看護師の山田彩乃氏と本学の池田よし江先生に担当していただき、受講者数は少なかったが受講者個々の進度に合わせた演習が好評だった。「在宅医療・介護現場で発生しやすいスキンーテアと皮膚損傷～予防から医療連携まで」は、新潟労災病院皮膚・排泄ケア認定看護師（特定行為研修修了）の太田美奈氏を講師に迎えた。基本知識を踏まえて具体的なケア方法を体験でき、わかりやすかったとの声が寄せられた。「臨床に活かすための薬の知識」は、

長野赤十字病院がん専門薬剤師の若林雅人氏を講師に迎えて、最新の抗がん剤治療や副作用のケア、受講者の実践状況に身近な薬物の作用や与薬方法の実際を学んだ。

公開講座参加者の声は、2021 年度から Google フォームによる無記名の Web アンケートで収集している。昨年度見直したアンケート内容を使用して、各講座の終了時に運営担当者が参加者アンケートについて説明して協力を依頼し、アンケートフォームの URL を提示して回答を求めた。回答率は 22~100%で、受講した講座に対する満足度は総じて高かった。

今年度はようやく対面型開催を再開し、演習を含む公開講座を実施できた。募集定員を下回った講座もあったが、全講座で参加者の期待に応える内容を提供できた。次年度の公開講座も内容に応じて本学で学ぶ対面型開催を増やし、看護実践に活用できる内容の学習機会が提供できるように取り組む。

**表 1. 看護職学習支援公開講座開催実績**

| 区分 | 講座名　（※：Web 開催） | 開催日 | 参加者数 | 金額 | 講師(敬称略) |
|---|---|---|---|---|---|
| 看護研究支援 4コース | さあはじめよう看護研究①<br>「看護研究のテーマをみつけよう」※ | 5 月 11 日(土)<br>13:00～16:00 | 27 | 1,000 円 | 新潟県立看護大学<br>教授 石田和子 |
| | さあはじめよう看護研究②<br>「文献検索の基本と文献検索の実際～医中誌 Web を中心に～」 | 6 月 22 日(土)<br>13:00～16:00 | 13 | 1,000 円 | 新潟県立看護大学<br>准教授 小林綾子<br>図書館専門司書 吉原貴子 |
| | さあはじめよう看護研究②<br>「看護研究方法の理解」※ | 7 月 27 日(土)<br>13:00～16:00 | 19 | 1,000 円 | 新潟県立看護大学<br>教授 石田和子 |
| | さあはじめよう看護研究③<br>「研究計画書の書き方」 | 9 月 28 日(土)<br>13:00～16:00 | 12 | 1,000 円 | 新潟県立看護大学<br>教授 石田和子 |
| 看護実践に活かす 4コース | 解剖生理から根拠を押さえたフィジカルアセスメント～毎日の検温を“日課”から“ケア”に変える！～ | 7 月 6 日(土)<br>13:30～16:00 | 15 | 1,000 円 | 新潟県立看護大学<br>助教 山岸美奈子<br>助教 相澤達也 |
| | もう一度はじめから 根拠がわかる実践！採血 | 10 月 12 日(土)<br>13:30～16:00 | 5 | 2,000 円 | 新潟県立看護大学<br>助教 池田よし江<br>新潟県立中央病院<br>臨床看護師 山田彩乃 |
| | 在宅医療・介護現場で発生しやすいスキン - テアと皮膚損傷～予防から医療連携まで～ | 11 月 9 日(土)<br>13:30～15:30 | 31 | 1,000 円 | 新潟労災病院<br>皮膚・排泄ケア認定看護師<br>(特定行為研修修了)<br>太田美奈 |
| | 臨床に活かすための薬の知識 ※ | 11 月 30 日(土)<br>13:30～15:30 | 9 | 1,000 円 | 長野赤十字病院<br>がん専門薬剤師　若林雅人 |

## ２．バーチャルカレッジ

バーチャルカレッジは、本学の学習管理システム「どこでもカレッジ(通称どこカレ)」を用いて動画教材を視聴するオンデマンド学習を支援する会員制プログラムで、会員を「どこカレメイト(以下、メイト)」と呼称している。学習管理システム使用に本学規程による利用申請を要するため会員制であるが、メイト登録と学習管理システム利用は無料である。

今年度の公開講座の一覧に、昨年度追加した看護研究支援コースから「文献検索の基本」、

看護現場に活かすコースから「退院支援に関わる看護職の看護実践能力向上を目指した院内教育の取り組み」と「研究成果を看護実践へ還元する －文献検索のポイント・読み方・活かし方－」の動画教材を加えたことを案内した。今年度の公開講座のうち、看護研究支援コースから「文献検索の基本」と「文献検索の実際」、看護現場に活かすコースから「解剖生理から根拠を押さえたフィジカルアセスメント～毎日の検温を“日課”から“ケア”に変える～」と「もう一度はじめから 根拠がわかる実践！採血」の動画教材を作成した。

公開講座参加者アンケートでは、今年度からバーチャルカレッジへの要望や掲載を希望する内容について自由記述による回答を求めている。2024 年度の公開講座参加者延べ 131 人から寄せられた回答は 3 件で、「公開講座の動画が視聴できるのがよい」1 件、「大学院説明会の内容」1 件、「特になし」1 件であった。

動画教材化した公開講座は、講師に協力を依頼して承諾を得た後に参加者にも動画教材化の目的で録画する旨を説明して協力を得ている。また、オンデマンド学習用の動画教材であるため、視聴時の実践に適した内容を提供する観点から動画教材の使用期間は最長 5 年としてきた。教材に含まれる情報や専門知識の更新速度が年々早まっていることを鑑みて、次年度からは過去 3 年度分の動画教材を視聴対象とする方針である。

## ３．どこカレ通信

どこカレ通信は、バーチャルカレッジの会員であるメイトに向けて、公開講座やバーチャルカレッジの案内、看護研究交流センターの活動紹介を目的として、看護職学習支援公開講座の開催時期を勘案して発行している。

今年度のどこカレ通信の発行実績を表 2 に示した。送付先は、県内看護職が就業する施設とメイト、計 1,276 箇所である。主な内容は、公開講座の実施状況の紹介と開催案内を中心に、地域課題研究の公募や研究発表会の案内、バーチャルカレッジの紹介、メイト登録の案内等を掲載し、年 2 回の発行とした。どこカレ通信は紙面発行するほか、本学リポジトリに収載して本学ホームページで公開し、本学看護研究交流センターホームページにも掲載している。

表 2　どこカレ通信発行実績

| 号名 | 発行時期 | 送付部数 | 主な内容 |
|---|---|---|---|
| 54 | 8 月 | 1,276 | これから開催する公開講座の案内、開催した公開講座の終了報告 |
| 55 | 3 月 | 1,276 | 公開講座の終了報告、次年度の看護職学習支援公開講座の紹介、バーチャルカレッジ新教材掲載の案内、メイト募集の案内 |

## ４．その他

1）メイト獲得に向けた取り組み

メイト登録対象は、新潟県内在住の看護職で年齢は問わない。メイト登録には、本学の学修管理システムの使用に必要な本学規程による利用申請手続きが含まれており、学修管理システムを含む本学情報システムの管理上、2 年ごとの更新制で運営している。昨年度末に Web 申請用の申込フォームを整備して本学看護研究交流センターホームページに実装し、本学情報ネットワーク特別委員会の承認を受けて本学規程による利用申請書類の押印を省略して、メイト登録手続きの簡便化を図った。申込フォーム実装後から、登録者が希望する方法で登

録手続きが進められるように、押印省略が承認された書類の提出は電子メールまたは郵送のいずれかを申請者が選べるようにした。

今年度からメイト登録の新規申請はWeb申請のみとし、学修管理システムを含む情報システム利用登録完了後に送付する利用者登録情報(ID、パスワード)とバーチャルカレッジ運用手順書は紙面を郵送している。

メイトの新規獲得に向けて、メイト以外も受講する公開講座時に紹介し、どこカレ通信にバーチャルカレッジの紹介と併せてメイト募集を案内して周知を図っている。今年度のメイト新規登録は16名、2024年2月末時点の登録数は75名である。更新年度を迎えた28名に更新案内を送付した。

次年度は、メイト登録数の増加に向けて、公開講座開催時のメイト募集案内と看護職学習支援公開講座のメイト先行申込特典を継続し、バーチャルカレッジの活用を含むメイトの学習支援について継続して取り組む。

2）広報活動

看護研究交流センター案内（ガイドブック）の発送、本学ホームページへの公開講座開催案内の掲載、病院や施設へのチラシの送付など、積極的に情報を公開した。公開講座開催時には、参加者に向けてバーチャルカレッジとメイト登録の案内、次回の公開講座の紹介を行い、公開講座終了後の参加者アンケートにも設問を設定した。

看護職学習支援公開講座について、上越圏域の看護職の参加が少ない状況があり、昨年度は上越圏域看護部長会で活動概要を紹介し広報する時間をいただいた。今年度は専門性の高い看護職育成部門の活動を通じて、上越圏域看護部長会での広報を実施した。今年度も全ての公開講座に上越圏域の看護職の参加があり、参加者数は総じて増加した。次年度も今年度の広報活動を継続する。

資料 1－どこカレ通信 54 号

# どこカレ通信 第54号

新潟県立看護大学看護研究交流センター　2024年8月発行

## ◆ これから開催する看護職学習支援公開講座

| 日　時 | テーマ | | 定員 | 参加費 | 申込期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9月28日（土）<br>13：00～16：00 | さあ始めよう看護研究④「研究計画書の書き方」<br>講師：新潟県立看護大学　教授　石田和子 | 講義<br>対面 | 40<br>名 | 1000<br>円 | 8/19～<br>9/17 |
| 10月12日（土）<br>13：30～16：00 | もう一度はじめから 根拠がわかる実践！　採血<br>講師：新潟県立看護大学　助教　池田よし江<br>新潟県立中央病院　看護師　山田彩乃 | 講義<br>演習<br>対面 | 20<br>名 | 2000<br>円 | 9/2～<br>10/1 |
| 11月9日（土）<br>13：30～15：30 | 在宅医療・介護現場で発生しやすいスキン-テアと皮膚損傷<br>～予防から医療連携まで～<br>講師：新潟労災病院　皮膚・排泄ケア認定看護師　太田美奈 | 講義<br>対面 | 40<br>名 | 1000<br>円 | 9/30～<br>10/29 |
| 11月30日（土）<br>13：30～15：30 | 臨床に活かすための薬の知識<br>講師：長野赤十字病院　がん専門薬剤師　若林雅人 | 講義<br>Web | なし | 1000<br>円 | 10/21～<br>11/19 |

＊申込は看護研究交流センターホームページの「看護職学習支援公開講座申込フォーム」から

## ◆ 終了した看護職学習支援公開講座

**看護研究支援コース　さあはじめよう看護研究①**
**「看護研究のテーマをみつけよう」Web**
日時：5月11日（土）13：00～16：00
講師：新潟県立看護大学　教授　石田和子
参加者：27名
看護研究支援コースの第1回目は、本学石田和子教授による研究テーマの見つけ方、テーマの絞り込み方などについて、講師の経験談を交えた講義がありました。「看護研究について勉強を始めたばかりであり、テーマの決め方について参考になった。」「研究テーマを見つける方法について、具体例をあげて教えていただいたので、わかりやすかった。」などの意見が寄せられ、これから看護研究に取り組む方への第一歩を踏み出す講義になりました。

**看護研究支援コース　さあはじめよう看護研究②**
**文献検索の基本と文献検索の実際～医中誌webを中心に～**
日時：6月22日(土) 13：00～16：00
講師：新潟県立看護大学　准教授　小林綾子
新潟県立看護大学　図書館職員専門司書　吉原貴子
参加者：13名
本学の小林綾子准教授から文献検索の基本についての講義の後、本学図書館職員の吉原貴子専門司書による演習を含めた講義がありました。実際にノートパソコンを操作しながら、医中誌Webによる文献検索方法について学び、参加者からは「演習問題があり、わかりやすかった」「研究に向けて大変参考になった」などの意見が聞かれ、文献検索を学ぶ貴重な機会となりました。

**看護現場に活かすコース　解剖生理から根拠を押さえたフィジカルアセスメント　～毎日の検温を"日課"から"ケア"に変える！～**
日時：7月6日（土）13：30～16：00
講師：新潟県立看護大学　基礎看護学　助教　山岸美奈子
新潟県立看護大学　成人看護学　助教　相澤達也
参加者：15名
看護現場に活かすコースは、4年ぶりに対面での開催となりました。フィジカルアセスメントの基本について本学山岸美奈子助教より、わかりやすい講義があり、正しい聴診器の当て方、正常呼吸音と異常呼吸音の聴診による鑑別などについては、本学の相澤達也助教による丁寧な解説を交えた演習を行いました。シミュレーターを用いた演習は受講者全員が体験することができました。受講者からは「実際に異常呼吸音を聞けて分かりやすかった」「実際に呼吸音を聞くことができ理解が深まった」などの意見が聞かれ、日々の看護ケアに活かせる講義・演習になりました。

新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日9：30～16：00）
〒945-0147 上越市新南町240番地　TEL・FAX：025-526-2822
Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp　ホームページ：http://www.nirin.jp/

資料 2－どこカレ通信 55 号

# どこカレ通信 第55号

公立大学法人 新潟県立看護大学看護研究交流センター　2025年3月発行

## ◆2024年度看護職学習支援公開講座は11月で終了しました

延べ131名の方からご参加いただき、ありがとうございました。次年度も皆様の学習を支援していきます。

## ◆2025年度看護職学習支援公開講座 開催予定

| | 日時 | 形態 | 対象 | テーマ・講師 | 定員 | 参加費 | 申込期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 看護研究支援 5コース | 5/10(土)<br>13:00～<br>16:00 | Web<br>講義 | 新潟県内の看護職<br>および<br>本学卒業生・修了生<br>※いずれも卒後1年目を除く | さあはじめよう看護研究 ①<br>「看護研究のテーマをみつけよう」<br>新潟県立看護大学　教授　石田 和子 | なし | 1000円 | 4/2<br>～<br>4/30 |
| | 6/7(土)<br>13:00～<br>16:00 | 演習 | | さあはじめよう看護研究 ②<br>「看護研究相談会」<br>新潟県立看護大学　教授　石田 和子 | 50名 | 1000円 | 4/30<br>～<br>5/28 |
| | 6/28(土)<br>13:00～<br>16:00 | 演習 | | さあはじめよう看護研究 ③<br>「看護研究方法の探解－量的研究」<br>新潟県立看護大学　教授　高林 知佳子 | 30名 | 1000円 | 5/21<br>～<br>6/18 |
| | 9/6(土)<br>13:00～<br>16:00 | 講義<br>演習 | | さあはじめよう看護研究 ④<br>「医中誌Webを用いた文献検索の実際<br>～文献検索の「困った！」を解決しよう～<br>新潟県立看護大学　専門司書　吉原 貴子 | 30名 | 1000円 | 7/30<br>～<br>8/28 |
| | 10/4(土)<br>13:00～<br>16:00 | 演習 | | さあはじめよう看護研究 ⑤<br>「看護研究方法の探解－質的研究」<br>新潟県立看護大学　教授　大久保 明子 | 30名 | 1000円 | 8/27<br>～<br>9/24 |
| 看護現場に活かす 5コース | 7/12(土)<br>13:30～<br>16:00 | 講義<br>演習 | | バイタルサインを見直そう<br>～毎日の検温を"日課"から"ケア"に変える！～<br>新潟県立看護大学　助教　山岸 美奈子<br>新潟県立看護大学　助教　相澤 達也 | 20名 | 1000円 | 6/4<br>～<br>7/2 |
| | 7/26(土)<br>13:30～<br>16:00 | 講義<br>演習 | | 根拠がわかる採血<br>～モデルを使った演習でスキルアップ！～<br>新潟県立看護大学　助教　池田 よし江<br>新潟県立看護大学　助教　金井 香織 | 10名 | 2000円 | 6/18<br>～<br>7/16 |
| | 9/27(土)<br>13:00～<br>15:00 | 講義<br>演習 | | 高齢者の脆弱な肌の悩みを考える<br>～事例を通して皮膚トラブルを解決してみよう～<br>新潟県立中央病院　皮膚・排泄ケア認定看護師　林 智子 | 40名 | 1000円 | 8/20<br>～<br>9/17 |
| | 10/25(土)<br>13:30～<br>16:00 | 講義 | ※卒後2年目以上の看護職 | ケアの優先度を決める"看護のアセスメント"<br>～明日からの実践に活かすフィジカルアセスメントと看護の臨床推論～<br>新潟県立看護大学　客員教授　山内 豊明 | 90名 | 1000円 | 9/17<br>～<br>10/15 |
| | 11/8(土)<br>13:30～<br>16:00 | 講義<br>演習 | ※卒後3年目以上の看護職 | チーム力をアップさせるためのヒントを得よう！<br>～ワークを通して得た体験から考える～<br>新潟県立看護大学　教授　岡村 典子 | 30名 | 1000円 | 10/1<br>～<br>10/29 |

＊申込は看護研究交流センターホームページの「看護職学習支援公開講座申込フォーム」またはQRコードから

## ◆メイトの皆様へ　NEW 2024バーチャルカレッジの教材をアップしました！

| | |
|---|---|
| 看護研究支援コース さあ始めよう看護研究②<br>「文献検索の基本」 | 新潟県立看護大学<br>成人看護学 准教授　小林 綾子 |
| 看護研究支援コース さあ始めよう看護研究③<br>「文献検索の実際～医中誌Webを中心に～」 | 新潟県立看護大学<br>専門司書　吉原 貴子 |
| 看護現場に活かすコース<br>「解剖生理から根拠を押さえたフィジカルアセスメント<br>～毎日の検温を"日課"から"ケア"に変える！～」 | 新潟県立看護大学<br>基礎看護学 助教　山岸 美奈子<br>成人看護学 助教　相澤 達也 |
| 看護現場に活かすコース<br>「もう一度はじめから 根拠がわかる実践！採血」 | 新潟県立看護大学<br>基礎看護学 助教　池田 よし江 |

**《どこカレメイト募集》**
ID/パスワードを登録してバーチャルカレッジの教材を視聴してみませんか。
申込：看護研究交流センターホームページの【メイト登録申込フォーム】またはQRコードから
対　象：新潟県内の看護職
本学卒業生・修了生
登録料：無料

公立大学法人 新潟県立看護大学　看護研究交流センター（受付時間：平日9：30～16：00）
〒943-0147 上越市新南町240番地　TEL・FAX：025-526-2822　Eメール：nirin@niigata-cn.ac.jp
ホームページ：http://www.nirin.jp/

# 地域課題研究開発部門

樺澤三奈子、野口　裕子、石岡　幸恵、野澤　祥子、
金井　香織、五十畑麻奈美、野村　優希、佐藤さゆり

## Ⅰ　本部門の事業目的

本部門の事業目的は、新潟県の保健・医療・福祉分野で働く看護職の実践現場における研究活動を支援することを通じて、新潟県の看護の質向上をめざすことである。

## Ⅱ　活動状況

### １．県全域における看護研究の促進

#### １）地域課題研究助成

##### (1) 継続研究課題に対する助成（**表１**）

新潟県内の保健医療福祉機関において看護実践に携わる看護職を対象とし、看護実践上の問題や課題の解決を目指して行われる看護研究に対する助成を実施している。今年度には、計 13 件の地域課題研究に対する助成を行い、その継続を目指して本学教員が学内共同研究者として研究支援をサポートしている。

**表１．2024 年度　地域課題研究助成 一覧**

| 年度 | 研究代表者 | 所　属 | 学内共同研究者 | 研究テーマ |
|---|---|---|---|---|
| 2024年度 | 村越　結衣 | 長岡赤十字病院 | 樺澤三奈子 | 化学療法を受ける肺がん患者の在宅における感染予防行動の実態と行動の動機に関する研究 |
| | 星野貴美子 | 長岡赤十字病院 | 小林　宏至<br>大久保明子 | NICU 入院児の母親が抱く授乳や搾乳時の不快感の現状と課題 |
| | 源川　雅斗 | 長岡赤十字病院 | 小林　綾子 | 顎矯正手術を受け術後顎間固定を受けた患者の術前の思いと手術に向けた看護介入の検討 |
| | 水澤真由美 | 新潟県立中央病院 | 岡村　典子 | 看護提供方式による新人教育への影響 |
| | 霜田　章子 | 上越総合病院 | 舩山　健二<br>永吉　雅人 | 外来看護業務量データに基づいた外来人員配置の検討 |
| 2023年度 | 大澤　寿子 | 新潟県立柿崎病院 | 関　睦美 | 看護師の退院支援モデル活用の効果と課題 |
| | 佐藤　七重 | 豊栄病院豊栄訪問看護ステーション | 前川絵里子<br>高林知佳子 | 神経難病療養者を担当する介護支援専門員が訪問看護師に期待すること |
| | 志賀木綿子 | 総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ<br>みどり病院 | 原　等子 | 民生委員・児童委員が捉える認知症の早期発見，早期受診に向けた支援 |
| | 瀧澤いずみ | 新潟信愛病院 | 山岸美奈子<br>永吉　雅人 | A 県内の病院に勤務する看護師の臨床における看護研究活動の課題と効果的な支援の検討 |
| | 外川　友子 | 長岡赤十字病院 | 相澤　達也 | A 病院救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識 |
| | 箕輪　明美 | 長岡赤十字病院 | 石田　和子 | 乳房再建手術における前頸部皮膚障害予防への取り組み |
| | 柳澤美直代 | 藤田企画グループ<br>ホーム癒しの家 | 東條　紀子 | 認知症対応型共同生活介護における医師不在時の ICT を活用した遠隔看取りの実際 |
| 2022年度 | 山崎　正和[注1] | 長岡赤十字病院 | 石岡　幸恵 | 在宅酸素療法を利用している患者の MDRPU に対する認識と行動 |

（注 1）2022 度地域課題研究 6 件のうち、止むを得ない事情により、令和 6 年度まで研究期間延長が認められた 1 件を掲載

（2）新規研究課題の公募（**表２**）

2025 年度地域課題研究の公募を 12 月 6 日（金）に終了した。昨年度の 2 倍にあたる 12 件の助成交付申請があり、審査の結果、9 件が採択された。12 月 24 日（火）にオンラインにて地域課題研究オリエンテーションを行った。2025 年 3 月 7 日（金）の研究計画書の提出をめざし、研究代表者および研究メンバーが、本学共同研究者である教員のサポートを受けて研究計画を検討中である。

**表２．2025 年度地域課題研究助成　交付決定課題一覧**

| 年度 | 申請代表者 | 所属 | 本学共同研究者 | 研究テーマ |
|---|---|---|---|---|
| 2025年度 | 立川由紀子 | 見附市民病院 | 石岡　幸恵 | 地域施設の協力医療機関としての病院における看護師の緩和ケアに関する認識と課題 |
| | 大家あずさ | 南魚沼市民病院 | 谷内田潤子 | 弾性ストッキングの着脱方法に関する看護師の知識と実践の実態調査 |
| | 山 田　　希 | 長岡赤十字病院 | 石田　和子 | がん治療への期待が強い患者へ最期まで本人らしく生きることを支える看護 |
| | 早川由紀美 | 長岡赤十字病院 | 相澤　達也 | 急性心筋梗塞により緊急 PCI を受けた患者の体験　～病名告知から IVR 室退室までに焦点をあてて～ |
| | 武田　織枝 | 吉岡内科クリニック | 小林　綾子 | A 地域における災害時の糖尿病療養支援に携わる看護師の役割 |
| | 傳谷　典子 | 介護老人保健施設サンプラザ長岡 | 小長谷百絵 | 高齢者施設に勤務する医療・福祉職のストレスに関する研究 |
| | 田中　浩之 | 新潟県立中央病院 | 伊豆上智子<br>岡村　典子 | 上越圏域の看護管理者が、各施設の枠を超えて地域の課題に取り組むことが可能となった要因 |
| | 柳森　弥生 | 新潟病院附属看護学校 | 岡村　典子 | 腰痛のない看護師が取り組んでいる具体的な腰痛予防対策の実態 |
| | 丸山　芽吹 | さいがた医療センター | 大久保明子<br>野 澤 祥 子 | アドバンス・ケア・プランニングに関する看護師の認識と課題 |

２）地域課題研究発表会の開催（**図１，表３**）

10 月 19 日（土）に本学の会場参加とオンラインを併用したハイブリッド形式にて、2024 年地域課題研究発表会（2022 年度・2023 年度研究報告）を開催した。この発表会は、新潟県上越地域振興局健康福祉環境部との共催による、上越地域看護研究発表会との合同企画である。実行委員会は上越地域の 7 病院の看護職と共催者で構成され、本部門では、企画、抄録作成、参加募集、企業展示 2 件の手配を含む準備と、当日の発表会の運営を担った。

地域課題研究発表会では、地域課題研究 7 件、上越地域看護研究 8 件、計 15 件の口頭発表が本学会場にて行われた。発表会後、発表内容を録画した動画を 1 か月間、オンデマンドで配信した。参加者は計 101 名（前年度 124 名）、そのうち会場参加者は 54 名（前年度 95 名）、オンライン参加者 17 名（前年度 10 名）、オンデマンド配信申込者 30 名（前年度 19 名）における視聴回数は 33 回（前年度 195 回）であった。

２．上越圏域における看護研究の促進（**図１**）

新潟県上越地域振興局健康福祉環境部との共催により、10 月 19 日（土）に本学の会場参加とオンラインを併用したハイブリッド形式にて、上越地域看護研究と地域課題研究の合同発表を開催した。実行委員会は、上越地域の 7 病院の看護職と共催者で構成され、上越地域看護研究発表会の演題については、本部門で査読を担った。

地域課題研究発表会での参加者数は、前項２）で前述のとおりである。合同発表会後のアンケートでは、全員が発表会への参加について満足・やや満足と回答し、また、開催形式についてはハイブリッド開催方式に賛同する者が約 9 割に上った（n=63）。

## Ⅲ．事業の評価と今後の課題

次年度の地域課題研究発表会は、2025 年 10 月 18 日（土）、上越地域看護研究との合同開催を予定している。地域課題研究発表会・上越地域看護研究発表会への参加者増員のため、ハイブリッド形式による発表会の希望が多いことから次年度も同形式で開催する。ハイブリッド形式による開催は、医療施設等では未だ感染対策を要する状況や県西端にある本学の地理的な特性に鑑みて有意義であると考えられる。

その一方で、最近ではオンデマンド視聴申込者や視聴回数が減少傾向であることから、次年度にはオンデマンド配信を取り止めて会場参加者の増員を促進する予定である。また、広報活動として、看護職学習支援部門および専門性の高い看護職育成部門との連携に基づく看護研究の推進、公募要領の郵送や対面配布に引き続き尽力するとともに、次年度には、「広報上越」への研究発表会開催案内の掲載を計画している。

発表者による機器操作のトラブルの防止や緊張による心理的負担の軽減のため、昨年度から導入した、発表操作のサポートを担う研究メンバーの登壇の許可や発表終了時間をランプで知らせるスピーチタイマーランプの導入が好評であったため、次年度も継続して行う。

図１．第 14 回上越地域看護研究・2024 年地域課題研究　合同発表会の様子

表 3. 第 14 回上越地域看護研究発表会　2024 年地域課題研究発表会　合同発表会プログラム

| 概　要<br>時　間 | 令和 6 年 10 月 19 日（土）12:30～16:20　（開場 12:00）<br>会場：県立看護大学第 1 ホール（会場及びオンライン参加）※オンデマンド配信あり<br>主催：新潟県上越地域振興局健康福祉環境部・新潟県立看護大学看護研究交流センター |
|---|---|
| 12:00 | 開場、Zoom 参加者入室 |
| 12:30～12:40 | 開会式：上越地域振興局健康福祉環境部部長・新潟県立看護大学学長あいさつ |
| 12:40～13:35 | **演題発表【A-1 群：上越地域看護研究】**<br>座長：桒原 広美（新潟県立中央病院）<br>演題 1 佐藤 泉実（新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院）<br>能登半島地震で被災し災害サイクル慢性期にある透析患者への多職種協働と地域包括ケアシステムを活用した社会復帰・退院支援の実際<br>演題 2 太田 祐也（新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院）<br>転倒・転落ハイリスク患者のリスク可視化による看護師の転倒・転落リスクに対する意識の変化<br>演題 3 岡田 汐里（医療法人 知命堂病院）<br>継続性のある看護を目指したカンファレンス実施のための取り組み<br>演題 4 鈴木 順美（独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター）<br>精神デイケア患者を対象としたクロザピン勉強会の実践報告 |
| 13:35～14:25 | **演題発表【B-1 群：地域課題研究】**<br>座長：野口 裕子（新潟県立看護大学）<br>演題 1 山崎 正和（日本赤十字社 長岡赤十字病院）<br>在宅酸素療法を利用している患者の MDRPU に対する認識と行動<br>演題 2 大澤 寿子（新潟県立柿崎病院）<br>看護師の退院支援モデルの活用の効果と課題<br>演題 3 佐藤 七重（新潟県厚生農業協同組合連合会 豊栄病院）<br>神経難病療養者を担当する介護支援専門員が訪問看護師に期待すること<br>演題 4 瀧澤 いずみ（特定医療法人青山信愛会 新潟信愛病院）<br>A 県内の病院に勤務する看護師の臨床における看護研究活動の課題と効果的な支援の検討 |
| 休憩（15 分） | |
| 14:40～15:35 | **演題発表【A-2 群：上越地域看護研究】**<br>座長：高木 紀子（新潟県厚生農業協同組合連合会 けいなん総合病院）<br>演題 5 吉澤 恵美（医療法人常心会 川室記念病院）<br>精神科慢性期病棟における窒息予防への取り組み<br>～スタッフの意識向上を目指して～<br>演題 6 保科 三千代（独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター）<br>軽度認知障害（MCI）デイケア『りんどう』の実施に向けた取り組み<br>～『りんどう』の運営状況と今後の課題～<br>演題 7 小田嶋 由香里（新潟県厚生農業協同組合連合会 糸魚川総合病院）<br>大腿骨骨折患者が術後に食事摂取不良となる要因の検討<br>演題 8 堤 沙紀（医療法人 知命堂病院）<br>ポジティブシンキングの周知とありがとうカードの実践による、病棟職員のポジティブ感情の変化 |
| 15:35～16:15 | **演題発表【B-2 群：地域課題研究】**<br>座長：石岡 幸恵（新潟県立看護大学）<br>演題 5 志賀 木綿子（総合リハビリテーションセンター みどり病院）<br>民生委員・児童委員が捉える認知症の早期発見，早期受診に向けた支援<br>演題 6 外川 友子（日本赤十字社 長岡赤十字病院）<br>救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識<br>演題 7 箕輪 明美（日本赤十字社 長岡赤十字病院）<br>乳房再建手術における前頸部皮膚障害予防への取り組み |
| 16:15～16:20 | 閉会式：看護研究交流センター長あいさつ |

## 特別研究部門

岡村典子、伊豆上智子、山田恵子、樺澤三奈子、原等子、永吉雅人、久我誠

### Ⅰ　本部門の事業目的

新潟県内の保健医療看護上の課題に対応した研究課題を設定して取組み、一般市民の健康の保持・増進や看護職の質的向上の推進の一助として貢献することである。

### Ⅱ　2024 年度の事業概要

2023 年度から取り組んだ研究は、データの分析と考察の推敲を進め、昨年 12 月に開催された第 44 回日本看護科学学会学術集会にて、課題名「A 県内の病院における看護研究実施状況および支援体制に関する実態調査」として発表した。この研究にて、新潟県内の病院施設において看護研究への取り組みは行われていること、また支援体制も概ね整っていることが分かった。その一方で、研究実施者は病棟内等で推薦された人の方が多かったこと、また、研究成果の公表は、院内における発表会など身近な場所での公表が多く、全国規模の学会等での発表は少ない状況にあることが分かった。これらのことから、当センターにおける看護職への学習支援内容として、病院に就業する看護職者が看護研究に興味を持って主体的に取り組むことをサポートするための学習機会の提供や、発表の場として本学の地域課題研究発表会に関する情報発信等が、看護研究の取組みの促進に貢献できるのではないかと考えている。

さらに、新たに取り組む研究課題として、上越圏域（上越市、妙高市、糸魚川市）に就業する看護職の学習ニーズに関する調査を考えており、現在、詳細な内容の検討を進めているところである。

### Ⅲ　今後の取り組み

2023 年度に取り組んだ研究は、結果を看護研究交流センターの看護職学習支援部門、地域課題研究開発部門の活動に反映させるとともに、学会誌や紀要への投稿を進めていく。

また、新たに取り組む研究課題のメンバーとして、部門長に限定せず、各部門からの推薦・自薦にてメンバーを募る予定である。

上記の取り組みを進めるため、部門の会議を定期的に開催するとともに、役割担当を決める等の対応を行っていく。

# 専門性の高い看護職育成部門

岡村典子、石田和子、小長谷百絵、伊豆上智子、原等子、樺澤三奈子

## Ⅰ　本部門の事業目的

専門性の高い看護職員の育成に向け、行政（県）や新潟県看護協会、医療機関等の関係機関とともに連携して取り組む。

活動内容として、①上越圏域看護部長会の活動支援、②専門看護師のネットワーク支援（新潟県看護協会と連携）、③その他 専門性の高い看護職育成に必要と認められる事業、の 3 つがある。

## Ⅱ　2024 年度の事業概要

2023 年 10 月に本部門が発足し、部門員のコンセンサスを得る過程を経て、本事業を進めてきた。今年度は、定期的な部門会議を開催するとともに、主となる二つの活動については、リーダーとなる部門員の主導により活動の計画・実施を円滑に進めることができた。

### 1. 上越圏域看護部長会の活動支援

今年度の活動支援として、大きく二つ挙げられる。一つは、上越圏域にある 14 病院の看護部長（上越圏域看護部長会）が実施した研修会（意見交換会）の支援である。“上越圏域の看護部長が考える（理想とする）看護師長像の明確化と共有”をテーマに、6 回の研修会（2024 年 4 月～2025 年 1 月）が開催された。研修会を通して、「上越圏域において期待する“看護師長像”」として必要とされる能力とそれらの関連が図式化された。また、明らかとなった上越圏域において期待する“看護師長像”の育成に向けた研修計画が立案され、「“人が育ち、人を育てる”上越圏域看護職研修 ～看護管理者編～」第一回研修（2025 年 3 月 4 日）が本学を会場に開催され、40 名の看護管理者（看護師長、主任等）が参加した。

二つ目として、新任期看護職員（階層レベル、ラダー I 相応）を対象とした「フィジカルアセスメント研修」、及び昨年度のフィジカルアセスメント研修に参加した看護師の「フォローアップ研修」の支援である。前者の研修企画・運営に、本学の成人看護学領域・相澤達也助教、基礎看護学領域・山岸美奈子助教が携わった。どちらの研修も、本学を会場に開催された。

### 2. 専門看護師のネットワーク支援

新潟県看護協会と連携し、昨年度と同様に「専門看護師フォローアップ研修」を、2024 年 12 月 25 日に本学を会場に開催した。開催にあたり、新潟県看護協会、および専門看護師（Certified Nurse Specialist :CNS）4 名（がん看護専門看護師、母性看護専門看護師、老人看護専門看護師、地域看護専門看護師）の協力を得て企画を進めた。今回のテーマは「調整力をつける」であり、目的は“患者・利用者に最善の看護を提供するために CNS は様々な場面で調整機能が求められ、それには多様な調整能力が必要となる。今回の研修では自己の調整能力をどのように開発、向上させてきたのか振り返り、CNS としての役割開発に向けての活動につなげる”とした。

当日は、県内の CNS 19 名が参加し、午前は「倫理調整」について、淡海医療センター院長特別補佐・看護局 統括看護部長 慢性疾患看護専門看護師の伊波早苗氏より講義をし

ていただいた。午後は、「所属施設における調整の取組みと課題」をテーマとしたシンポジウムを開催し、4 名の CNS（地域看護、老人看護、がん看護、母性看護専門看護師）に発表してもらった。その後、「CNS の調整についての実際、悩み、課題」について、グループワークを行い参加者個々の思い・課題を共有した。終了後のアンケートから、午前の講義、午後のシンポジウムともに、“満足できた”“ほぼ満足できた”が 100%であった。研修については、“これからも継続してほしい”といった意見が多数寄せられた。

また、専門看護師のネットワーク支援を活発なものにするため、県内の他大学との連携を図った。専門看護師（4 分野）を養成している新潟大学大学院保健学研究科長（看護学専攻）の住吉智子先生、及びがん専門看護師を養成している新潟医療福祉大学看護学分野長の杉本洋先生と情報の交換を行った。やり取りのなかで、今年度のフォローアップ研修については看護研究交流センターより送付した文書を両大学ともに教員へ発信していることを伺うことが出来たとともに、今後も継続して情報交換を行うことの取り決めが出来た。

## Ⅲ　今後の取り組み

「上越圏域看護部長会の活動支援」については、看護管理者の育成に向けた研修開催を含む活動の企画や運営の支援を引き続き行っていくとともに、新任期看護職員を対象とした研修についても協力していく。

「専門看護師のネットワーク支援」については、参加者数の増加を図るため部門員にて意見交換を行い、その中で“民間病院や訪問看護の CNS が参加しやすい週末開催がよいのではないか”、“案内を個別に郵送、またはメールにて発信してはどうか”、“開催場所（新潟市、上越市）、開催時期（2023 年 3 月、2024 年 12 月）による違いはなかった。次年度は、開催時期をさらに早め、8 月から 9 月にかけて実施してはどうか”といった意見が出され、継続して検討をしている。

# Ⅲ．事務局報告

# 令和６年度出前講座実施報告

## Ⅰ　出前講座実施テーマ及び参加人数

（開催順）　　（人）

| | 開催日 | テーマ | 講師名 | 依頼団体 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4月22日(月) | いざという時の日用品を使った応急手当 | 山田恵子 | 高田地区更生保護女性会 | 32 |
| 2 | 4月26日(金) | 認知症のこと知りたい(ともに生きる編) | 原　等子 | 上越市社協大潟支所 | 20 |
| 3 | 5月22日(水) | 認知症のこと知りたい(ともに生きる編) | 原　等子 | 上越市立新道地区公民館 | 13 |
| 4 | 5月23日(木) | いざという時の日用品を使った応急手当 | 山田恵子 | サンクスたんぽぽ | 15 |
| 5 | 6月25日(火) | 働く人々の心とからだの健康づくり | 久保野裕子 | 上越市男女共同参画推進センター | 21 |
| 6 | 6月25日(火) | いざという時の日用品を使った応急手当 | 山田恵子 | 妙高市更生保護女性の会 | 17 |
| 7 | 6月27日(木) | 思春期（中学生）における子どもの心と身体の変化について | 山田恵子 | 上越教育大学付属中学校PTA | 30 |
| 8 | 6月29日(土) | 子どもと家族のこころと身体の健康 | 山田恵子 | 東城2丁目町内会 | 20 |
| 9 | 7月3日(水) | がんと生活習慣や感染症の関係について | 石岡幸恵 | 健康で心豊かに暮らす会 | 30 |
| 10 | 7月24日(水) | 乳がんのセルフチェックをやってみよう | 石岡幸恵 | 大曲こども園 | 17 |
| 11 | 7月26日(金) | 認知症のことを知りたい(ともに生きる編) | 原　等子 | 国府1丁目町内会 | 21 |
| 12 | 8月1日(木) | 認知症のことを知りたい(ともに生きる編) | 原　等子 | えちご上越農業協同組合 | 20 |
| 13 | 9月11日(水) | いざという時の日用品を使った応急手当 | 山田恵子 | シニアカレッジ上越同窓会 | 16 |
| 14 | 9月17日(火) | 認知症のこと知りたい（ともに生きる編） | 原　等子 | 田園サロン | 15 |
| 15 | 9月18日(水) | いざという時の日用品を使った応急手当 | 山田恵子 | ふきのとう | 10 |
| 16 | 9月18日(水) | 認知症の人と家族のこと　もう少し詳しく知りたい | 原　等子 | 健康で心豊かに暮らす会 | 30 |
| 17 | 10月4日(金) | 働く人々の心とからだの健康づくり | 久保野裕子 | 上越環境科学センター | 90 |
| 18 | 10月9日(水) | 働く人々の心とからだの健康づくり | 久保野裕子 | 医療法人 麓会 | 44 |
| 19 | 10月20日(日) | 薬物依存症 | 舩山健二 | 県立高田南城高校 | 61 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 10月22日(火) | 薬物依存症 | 舩山健二 | 県立高田南城高校 | 47 |
| 21 | 10月25日(金) | 認知症の人と家族のこと もう少し詳しく知りたい | 原　等子 | 糸魚川市上南地区公民館 | 23 |
| 22 | 10月30日(水) | 子どもの体調不良のホームケア | 山田恵子 | 真行寺幼稚園 | 6 |
| 23 | 11月7日(木) | 子どもの怪我の対応 | 山田恵子 | 上越市立国府小学校 | 108 |
| 24 | 11月26日(火) | がんと生活習慣や感染症の関係について | 石岡幸恵 | 上越市立東頸中学校 | 40 |
| 25 | 11月27日(水) | 認知症のこと知りたい（ともに生きる編） | 原　等子 | 頸城地区公民館 | 31 |
| 26 | 12月9日(月) | 働く人々の心とからだの健康づくり | 久保野裕子 | 上田レディースクリニック | 11 |
| 27 | 1月15日(水) | 子どもの怪我の対応 | 山田恵子 | 真行寺幼稚園 | 10 |
| 28 | 2月12日(水) | 子どもの体調不良のホームケア<br>子どもの怪我の対応 | 山田恵子 | 新潟県立高田北城高等学校 | 22 |
| 29 | 3月12日(水) | 働く人々の心とからだの健康づくり | 久保野裕子 | 医療法人 麓会 | 24 |
| | | | | 総参加者数 | 844 |

## Ⅱ　出前講座実施報告書

1.　出前講座実施報告書回答結果

実施件数　29件　　回答　21件

1）講座の内容について

| | |
|---|---|
| 非常によかった | 15件 |
| 良かった | 5件 |
| どちらともいえない | 1件 |

2）理由（同じ意味の内容を要約して記載）

| テーマ | 講座の感想 |
|---|---|
| 乳がんのセルフチェックをやってみよう | 疑問に思っていることが聞けてよかった。乳がんの知識、触診方法をわかりやすく丁寧に教えてもらった。早期発見の大切さが分かった。 |
| がんと生活習慣や感染症の関係について | アニメーションもあり保護者と共有できる内容だった。正しい知識が得られた。生徒同士のやり取りや問題形式を入れてもらえるとよかった。 |
| 働く人々の心とからだの健康づくり | 興味のある内容で、日常に活かせる内容だった。参加者同士の意見交換や動画視聴等があり充実していた。気づき、受容、共感、傾聴についての大切さを学び理解することができた。 |
| 認知症のことが知りたい（ともに生きる編） | 実例を通してわかりやすかった。自分のこととして受け止めることができ、認知症の理解が深まった。もっと聞きたかった。 |
| 認知症の人と家族のこともう少し詳しく知りたい | 関心の高さと講座の内容が合っていた。具体的な事例が聞けてよかった。認知症に対して気持ちが軽くなった。前向きに生活していきたい。 |

| | |
|---|---|
| 薬物依存症 | 若者を取り巻く薬物乱用事情についてわかりやすい説明だった。依存者の心理や気持ちに寄り添う大切さが伝わった。 |
| 乳幼児の体調不良時のホームケア | 日頃の困り事の相談ができた。ホームケアを学ぶことができてよかった。 |
| 子どもの怪我の対応 | 実技を通して子どもたちが楽しみながら学ぶことができた。 |
| いざという時の日用品を使った応急手当 | 身近にあるものが工夫しだいで役立つことに感嘆した。実技を通して楽しく学ぶことができた。早速出来ることを心掛け、いざという時に備えておきたい。 |
| 思春期における子どもの心と身体の変化 | 想像以上に踏み込んだ内容だったが、家族で話す良いきっかけになった。正しい知識を知ることができた。家族との会話、会話が与える安心感、親の愛情の大切さがわかり勉強になった。 |

3）その他、出前講座についての意見や気づいた点（同じ意味の内容を要約して記載）

・このような学びの機会を続けてほしい。
・今後も活用したい。
・毎年同じ方が参加するのでもう少しテーマの種類が多いとよい。
・申込みが簡単にできてよい。
・申込みから実施まで対応がスムーズで丁寧に進められていた。
・FAX やメールでのやり取りで申込みから報告まで完了するので、大変スムーズだった。
・旅費のみの負担で恐縮した、一定料の講師料を取った方が依頼しやすい。
・特に困ったことはなかった。
・日程等での調整・連絡が不良であった。

# Ⅳ．令和６年度地域課題研究助成報告
# 及び研究成果報告

１．　山 崎　正 和　：日本赤十字社 長岡赤十字病院（2022 年度）

２．　箕 輪　明 美　：日本赤十字社 長岡赤十字病院

３．　佐 藤　七 重　：新潟県厚生農業協同組合連合会 豊栄病院

４．　外 川　友 子　：日本赤十字社 長岡赤十字病院

５．　瀧澤 いずみ　：特定医療法人青山信愛会 新潟信愛病院

６．　志賀 木綿子　：医療法人新成医会
総合リハビリテーションセンターみどり病院

７．　大 澤　寿 子　：新潟県立柿崎病院

# 令和６年度地域課題研究助成報告

## Ⅰ　2022 年度地域課題研究助成（1 年延長）　1 件

研　究　課　題　名：在宅酸素療法を利用している患者の MDRPU に対する認識と行動
研　究　代　表　者：山崎　正和　　日本赤十字社長岡赤十字病院
共　同　研　究　者：金山　郁美　　日本赤十字社長岡赤十字病院
　　桑原　香菜子　日本赤十字社長岡赤十字病院
本学共同研究者：石岡　幸恵　　新潟県立看護大学
研究成果の公表：所属施設内で発表予定

| 予算額 | 66,117（※繰越額） | | | | （単位：円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 執行額 | 旅費 | 報償費 | 役務費 | 需用費 | 合計 |
| | 0 | 0 | 14,658 | 19,225 | 33,883 |

## Ⅱ　2023 年度地域課題研究助成　6 件

研　究　課　題　名：乳房再建手術における前頸部皮膚障害予防への取り組み
研　究　代　表　者：箕輪　明美　　日本赤十字社長岡赤十字病院
共　同　研　究　者：池田　　葵　　日本赤十字社長岡赤十字病院
　　宮本　和子　　日本赤十字社長岡赤十字病院
本学共同研究者：石原　千晶　　新潟県立看護大学
　　石田　和子　　新潟県立看護大学
研究成果の公表：所属施設の看護研究発表会で発表予定

| 予算額 | 62,225　（※繰越額） | | | | （単位：円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 執行額 | 旅費 | 報償費 | 役務費 | 需用費 | 合計 |
| | 20,404 | 0 | 0 | 0 | 20,404 |

研　究　課　題　名：神経難病療養者を担当する介護支援専門員が訪問看護師に期待すること
研　究　代　表　者：佐藤　七重　　新潟県厚生農業協同組合連合会 豊栄病院
共　同　研　究　者：なし
本学共同研究者：前川　絵里子　新潟県立看護大学
　　高林　知佳子　新潟県立看護大学
研究成果の公表：日本在宅看護学会第 14 回学術集会（千葉県船橋市）で発表予定

| 予算額 | 36,698（※繰越額） | | | | （単位：円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 執行額 | 旅費 | 報償費 | 役務費 | 需用費 | 合計 |
| | 23,320 | 0 | 0 | 9,000 | 32,320 |

研　究　課　題　名：A 病院救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識
研　究　代　表　者：外川　友子　　日本赤十字社長岡赤十字病院
共　同　研　究　者：土田　幹子　　日本赤十字社長岡赤十字病院
髙橋　駿介　　日本赤十字社長岡赤十字病院
川上　朱美　　日本赤十字社長岡赤十字病院
本学共同研究者：相澤　達也　　新潟県立看護大学
研究成果の公表：所属施設の看護研究発表会で発表予定

| 予算額 | 20,976（※繰越額） | | | | （単位：円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 執行額 | 旅費 | 報償費 | 役務費 | 需用費 | 合計 |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

研　究　課　題　名：A 県内の病院に勤務する看護師の臨床における看護研究活動の課題と適切な支援の検討
研　究　代　表　者：瀧澤　いずみ　　特定医療法人青山信愛会 新潟信愛病院
共　同　研　究　者：なし
本学共同研究者：山岸　美奈子　　新潟県立看護大学
永吉　雅人　　新潟県立看護大学
研究成果の公表：2025 年日本看護協会学術集会で発表予定

| 予算額 | 41,130（※繰越額） | | | | （単位：円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 執行額 | 旅費 | 報償費 | 役務費 | 需用費 | 合計 |
| | 20,914 | 0 | 0 | 0 | 20,914 |

研　究　課　題　名：民生委員・児童委員が捉える認知症の早期発見，早期受診に向けた支援
研　究　代　表　者：志賀　木綿子　　医療法人新成医会 総合リハビリテーションセンターみどり病院
共　同　研　究　者：谷口　憲央　　医療法人新成医会 総合リハビリテーションセンターみどり病院
本学共同研究者：原　　等子　　新潟県立看護大学
研究成果の公表：2024 年度認知症学会で発表予定

| 予算額 | 30,340（※繰越額） | | | | （単位：円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 執行額 | 旅費 | 報償費 | 役務費 | 需用費 | 合計 |
| | 30,340 | 0 | 0 | 0 | 30,340 |

研　究　課　題　名：看護師の退院支援モデル活用の効果と課題
研　究　代　表　者：大澤　寿子　　新潟県立柿崎病院
共　同　研　究　者：尾澤　麻美　　新潟県立柿崎病院
丸田　由美　　新潟県立柿崎病院
本学共同研究者：関　　睦美　　新潟県立看護大学
研究成果の公表：第 62 回全国自治体病院学会で発表予定、全国自治体病院協議会雑誌へ投稿予定

| 予算額 | 48,861（※繰越額） | | | | （単位：円） |
|---|---|---|---|---|---|
| 執行額 | 旅費 | 報償費 | 役務費 | 需用費 | 合計 |
| | 0 | 0 | 0 | 14,300 | 14,300 |

# 在宅酸素療法を利用している患者の MDRPU に対する認識と行動

山﨑正和[1)]，金山郁美[1)]，桑原香菜子[1)]，石岡幸恵[2)]
1）日本赤十字社長岡赤十字病院　2）新潟県立看護大学
キーワード：在宅酸素療法，MDRPU，認識と行動

【目的】在宅酸素利用者が在宅療養中は酸素カニューレによる医療関連機器圧迫創傷（Medical Device Related Pressure Ulcer ：以下 MDRPU）を発症していないが，入院中に形成してしまう事例があったため，在宅酸素利用者が MDRPU を予防するための行動を行っているのではないかと考えた．そこで本研究は在宅酸素療法を利用している患者の MRRPU に対する認識と行動を明らかにすること目的とした．

【研究方法】A 病院に入院している在宅酸素療法利用患者に半構成的面接にて在宅酸素療法中のカニューレ管理や方法についてインタビューを行った．対象者ごとに逐語録を作成した．データ分析では，MDRPU に対しての認識と行動を表す文脈を抽出しコード化し，意味内容が類似するものをカテゴリ化した．研究期間は令和 4 年 9 月～令和 5 年 3 月とし，研究参加の同意が得られた在宅酸素療法利用患者 4 名を研究対象とした．本研究は A 病院の研究倫理審査の承認を得て行い，対象者には研究の概要，参加の自由意志，個人情報の管理方法，利益不利益などについて説明を文章と口頭で行った．

【結果】研究対象者は 4 名であり，男性 3 名，女性 1 名，平均年齢は 71.2 歳であった．在宅酸素療法の期間は平均 26 カ月（±20 カ月）であった．分析の結果，在宅酸素療法を利用している患者の MRRPU に対する認識は 30 コードから 6 カテゴリが，行動は 56 コードから 11 のカテゴリが抽出された．認識には，【寝ていると耳が痛い】【擦れて硬くなると擦れて痛みが出る】など，カニューレ使用による痛みの経験や，【カニューレが外れてしまうことが多い】【自己管理するのは大変である】などカニューレの取り扱いの困難な状況が咲らかとなった．行動では，【少しでも硬くなるとすぐに変える】といったカニューレ交換を患者自身が考えて行っていた．そのため【カニューレが交換できるように予備を常に準備している】と備えていた。また，【耳にあたらないように自分なりに工夫している】【寝るときは耳が痛くなるので頻回に頭の向きを変える】といった工夫も行っている一方で，【家では長い時間カニューレを外している】といった酸素吸入を行っていない状況も明らかとなった．

【考察】生活の中でカニューレを外す場面やカニューレを清潔にする行動を行っていた．常時酸素吸入をしなければならない病状と，セルフケア行動の制限によるスキンケア不足，臥床状態による耳介部の圧迫，食欲低下による栄養状態の悪化が重なると，入院中の MDRPU の発生リスクを上げる要因となる．医療者はカヌラのずれやはずれを懸念し，ストラップをきっちりしめるなどの固定の強化や，ずれにくくするような工夫をするなど，より耳介部に圧をかけてしまう行動をとりがちである．その結果装着に意識が集中するあまり，スキンケアへの意識がおろそかとなり，結果，MDRPU を起こす要因を作っていたのではないかと考えた．患者の装着感に耳を傾け，セルフケア行動が行えるように援助することが重要である．MDRPU 発生を予防するためには，発生リスクをアセスメントし，リスクを低減するための看護ケアを実できる看護教育を行っていく必要がある．

【結論】在宅酸素療法を利用している患者の MRRPU に対する認識として，【寝ていると耳が痛い】などの 6 カテゴリが，行動として【耳にあたらないように自分なりに工夫している】などの 11 のカテゴリが抽出された．入院により在宅時よりより MRRPU が発生しやすい状況であることを意識し，リスクを軽減していく看護支援の必要性と方法について看護教育を行っていく必要があることが示唆された．

【利益相反】2023 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究助成を受けて実施した．

# 乳房再建手術における前頸部皮膚障害予防への取り組み

箕輪明美[1)]，池田葵[1)]，宮本和子[1)]，石原千晶[2)]，石田和子[3)]
1）日本赤十字社長岡赤十字病院　2）元新潟県立看護大学　3）新潟県立看護大学
キーワード：乳房再建手術，前頸部，皮膚障害

【目的】乳房再建手術は，乳癌と診断された患者が乳房切除後に失われた乳房の形態を復元する術式である．手術時間は 10 時間程度要し，全身麻酔で座位姿勢を一定時間保持する．A 病院では手術体位の影響を受けやすい背臀部には，皮膚障害発生予防として統一した看護を実施していた．しかし，2021 年に実施した乳房再建手術において，術後遅発的に，前頸部の皮膚障害が 2 例発生した．過去に経験したことのない皮膚障害であり，前頸部の皮膚障害に対する看護は，看護師によって個人差があり，統一した看護を実施していなかった．本研究では，乳房再建手術において統一した看護を実施し，前頸部の皮膚障害を予防することを目的とした．

【方法】2023 年 6 月から 2024 年 4 月の期間に乳房再建手術の外回りを担当し，本研究の主旨に同意を得られた手術室看護師 7 名を対象とした．皮膚の脆弱性を評価するためのスキンフレイルオリジナルチェックリストを含めた，前頸部皮膚障害予防に関するアセスメントシートを作成し，それに基づいて看護を実施した．実施後，前頸部の皮膚障害についての認識と，アセスメントシート使用に関するアンケート調査を行い，数値化できる項目の単純集計をした．また，自由記載内容と前頸部の皮膚障害発生状況を調査・集計し分析をした．倫理的配慮では，研究への参加は自由意思であること，個人が特定されないこと，得られた内容は本研究以外には使用しないこと等を文書及び口頭で説明をした．本研究は長岡赤十字病院の看護部研究倫理審査委員会の承認を得て実施した．

【結果】研究対象者は 7 名，手術室看護師経験年数は平均 13.8 年，アンケート回収率は 100%であった．アンケート調査において，アセスメントシート使用前は 71%の看護師が前頸部に皮膚障害が発生することを理解していたが，実際に観察を行っていたのは 29%であった．皮膚の脆弱性については，アレルギーの有無等の複数の項目から情報収集をしていた．内容分析において，アセスメントシート使用前の内容として 8 つのコードから，【看護師の知識や経験から個人の判断で看護をしていた】の 1 つのカテゴリーが作成された．使用後の内容として 28 のコードから，【アセスメントシートの使用により統一した看護ができる】，【アセスメントシートの使用により看護の質の向上が期待できる】の 2 つのカテゴリーが作成された．今回の研究対象患者において，前頸部の皮膚障害の発生はなかった．

【考察】アセスメントシート使用前の現状として，前頸部に皮膚障害が発生することを理解しているが，実際に観察をしていない看護師が多かった．A 病院では手術中に発生する皮膚障害の好発部位に前頸部を含めていないが，過去に他の部位で発生した皮膚障害の経験をふまえて，前頸部に皮膚障害が発生する可能性を理解していた．しかし，前頸部の皮膚障害の経験が少ないことが看護実践の認識の低さに繋がり，実際に観察をしていない看護師が多かった．また，看護のポイントが不明確であったことも観察をしていない要因となり，看護実践に個人差が生じていたと推察する．アセスメントシート使用後は，観察項目が具体的となり，統一した看護実践に繋がった．同じ視点で看護を実践することで，看護の質の維持・向上が期待できると考える．スキンフレイルオリジナルチェックリストの使用は，看護師の皮膚状態の観察意識の向上と，統一した視点での観察に対して有効であった．研究対象患者は術後に前頸部の皮膚障害の発生はなく，アセスメントシートを使用し看護を実践したことが有効であった．しかし，症例数が少ないため，今後も効果を評価していく必要性が示唆された．

【結論】乳房再建手術において，アセスメントシートを使用することで，前頸部の皮膚障害予防への意識が向上し，個人の知識や経験に加えて，統一した看護に繋がった．前頸部の皮膚障害の発生はなく，アセスメントシートの使用は有効であった．アセスメントシートの使用を継続し，効果を評価していく必要がある．

【利益相反】2023 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究助成を受けて実施した．

# 神経難病療養者を担当する介護支援専門員が訪問看護師に期待すること

佐藤七重[1)]，前川絵里子[2)]，高林知佳子[2)]
1）新潟県厚生農業協同組合連合会豊栄病院　2）新潟県立看護大学
キーワード：神経難病，介護支援専門員，訪問看護師

【目的】本研究は，神経難病療養者を担当する介護支援専門員が訪問看護師に期待することを明らかにすることを目的とする．

【方法】対象者は介護支援専門員経験が 5 年以上で，神経難病療養者を 2 例以上担当した経験をもつ介護支援専門員とした．A 県 B 地区の居宅介護支援事業所の管理者宛に研究の趣旨，目的，方法，研究参加への自由意思による同意と同意の撤回，研究結果の公表，個人情報保護などについて記した依頼文と研究説明書を郵送し対象者への配布を依頼した．研究協力の返書があり承諾の得られた対象者にインタビューを行った．本研究は，所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した．データ収集方法は半構成的面接を実施し、インタビュー内容は，神経難病療養者を担当しているときに介護支援専門員が訪問看護師に期待することに関する内容とした．分析はインタビューで語られた内容の意味が損なわれないようにデータを繰り返し読みコード化し，意味内容に着目しサブカテゴリー，カテゴリーへと段階的に抽象度を上げていった．

【結果】協力の得られた 7 名を分析した．65 のコード，11 のサブカテゴリー，5 のカテゴリーが抽出された．神経難病療養者を担当する介護支援専門員は訪問看護師に，《理解困難な神経難病について本人・家族に寄り添った分かりやすい説明への期待》《受容困難な事例への訪問看護導入に向けた本人・家族への説明への期待》という【神経難病特有の課題に対する本人家族への説明支援への期待】，《疾病自体が複雑なので生命に直結する医療的管理への期待》《訪問看護にリハビリ，医療処置，入浴介助など多くのケアをオールマイティに担うことへの期待》《本人家族と介護支援専門員への意思決定支援への期待》《稀少疾患で進行性の症状をもつ本人家族へ速やかな緊急時対応への期待》という【神経難病療養者・家族の療養生活を支える管理体制への期待】，《介護支援専門員や医師との積極的な連携への期待》という【介護支援専門員や医師との積極的な連携への期待】，《難病事例に訪問看護を導入するメリットを学ぶ機会の提供への期待》《介護支援専門員への難病の知識提供の期待》という【介護支援専門員への神経難病療養者の療養生活で支援に関して学ぶ機会の提供への期待】，《訪問看護への在宅医療調整のリーダー役への期待》《訪問看護が複雑な難病関連制度を学ぶことへの期待》という【在宅医療調整のリーダー役への期待】を期待していた．

【考察】本研究では，介護支援専門員が訪問看護師に対し，神経難病特有の課題に対応するため，本人家族への療養生活支援を期待していた．そのため訪問看護師は，病状の進行や予後予測，訪問看護導入の必要性を本人家族に分かりやすく説明し支援することが重要である．また，治療や療養場所の選定，生命維持に関する意思決定支援，医療・介護の全般的なケア，緊急時対応の支援も求められる．さらに，介護支援専門員は神経難病に関する専門的知識の提供を訪問看護師に期待しており，訪問看護師は主治医と同様に介護支援専門員と連携し，専門的な視点から得た情報を共有する必要がある．療養生活支援に必要な情報提供に加え，医療処置がない場合でも訪問看護の導入が必要であることを介護支援専門員に分かりやすく説明し，情報を共有することが重要である．一方で，介護支援専門員は訪問看護師が，難病関連の複雑な制度についての知識を習得することを期待しており，訪問看護師もその制度を効果的に活用するためにその内容を深く学ぶことが求められる．これにより，より良い支援体制が構築されることが期待される．

【結論】神経難病療養者を担当する介護支援専門員は訪問看護師に対し，神経難病特有の課題に対する本人家族への療養生活支援，神経難病に関する知識提供，訪問看護師による難病関連制度の学習を期待していた．

【利益相反】2023 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究助成を受けて実施した．

# 救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における
# 携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識

外川友子[1)]，土田幹子[1)]，髙橋駿介[1)]，川上朱美[1)]，相澤達也[2)]
1）日本赤十字社長岡赤十字病院　　2）新潟県立看護大学
キーワード：救急病棟，携帯用擦式アルコール消毒薬，手指衛生

【目的】医療従事者における手指衛生は，最も重要で基本的な院内感染防止策であり，CDC ガイドライン（2002）では，アルコール手指消毒薬の汎用が推奨されている．本研究では，救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識を明らかにすることを目的とした．
【方法】A 病院救急病棟に所属する，看護実践に関わる管理職を含む経験年数 3 年目以上の看護師を対象に，看護実践の一場面を想起してもらい，場面における携帯用擦式アルコール消毒薬への考え等を問う半構造化面接調査を行った．逐語録から，看護実践の状況における携帯式擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識に関する内容を抽出し，類似性・相違性に基づいてカテゴリー化した．
【倫理的配慮】長岡赤十字病院の倫理審査委員会の承認を得て調査を実施した．
【結果】A 病院救急病棟看護師の看護師 11 名にインタビューを実施した．対象の概要は，女性 8 名，男性 3 名，平均看護師経験年数 18.8 年，救急病棟平均経験年数 6.8 年であった．救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識について，【救急病棟看護師としての責務】【差し迫った状況における優先度の低下】【学習・経験を基にした必要性への気づき】【大事に至らなかった経験からの省略可否の判断】【アルコール消毒薬への抵抗感】【汚染への嫌悪感による自己防衛】【チームにおける相互作用による後押し】の 7 つのカテゴリーが明らかになった．
【考察】救急病棟看護師の臨床看護実践の状況における携帯用擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識として，専門職としての倫理観に加え，感染リスクが高いといった救急病棟の患者の特徴や院内における救急病棟の感染症対応における役割をふまえた救急病棟看護師としての責務が見いだされた．その一方で，緊急性の高い処置等の時間的圧力がある中では，手指衛生を省略することでの患者利益を考慮するとともに，急変対応時等の周囲の状況が圧力となり周囲からの逸脱を恐れることで手指衛生の優先度が低下することが考えられた．学習で獲得した知識は手指衛生の必要性の理解へ，感染症対応等の経験は手指衛生の必要性を身に染みて感じることへと繋がり，学習や経験が看護実践の場面において手指衛生を想起することに繋がっていた．大事に至ったことはないという経験と看護師の主観により感染リスクを低く評価することは，手指衛生の省略に繋がることが示唆された．また，チームの雰囲気や周囲からの視線といった組織風土は，動機付けや行動にプラスにもマイナスにも影響することが考えられた．
【結論】擦式アルコール消毒薬による手指衛生の認識は複数あり，それぞれ影響し合っていた．手指衛生の遵守率を改善するためには，組織体制や手指衛生製品の整備，教育，訓練，観察，フィードバックなどの対策を，多面的に継続して介入していく必要があり，手指衛生が習慣的に行う当たり前の医療行為となることが重要であると考える．
【利益相反】2023 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究助成を受けて実施した．

# A 県内の病院に勤務する看護師の臨床における看護研究活動の課題と効果的な支援の検討

瀧澤いずみ[1)]，山岸 美奈子[2)]，永吉 雅人[2)]
1）特定医療法人青山信愛会 新潟信愛病院　2）新潟県立看護大学
キーワード：臨床看護師，看護研究，課題，支援

【目的】臨床看護師が看護研究を行う上で感じた困難とその要因を明らかにし，臨床で行う看護研究の課題,および効果的な支援を検討する.

【方法】A 県下の病床数 100 床以上の病院に勤務し，臨床において看護研究を実施した看護師を対象に多肢選択式回答および自由回答を含む web アンケート調査を行った．調査項目は,回答者の基本属性,臨床における看護研究の実施形態，現状，看護研究を実施し良かったことや困難であったこと，今後の研究活動に対する意欲を設定した．分析方法は，各質問項目を単純集計し，自由記述の項目は意味内容の類似性に従いカテゴリ分類を行った．臨床における看護研究活動の課題を検討するために，看護研究を行う上で一番困難であったこと上位 3 項目をそれぞれ目的変数とする二項ロジスティック回帰分析を行った．有意水準は 5%とした.

【倫理的配慮】本研究は，新潟信愛病院倫理審査委員会の承認を受けて実施した．調査への参加は自由意思であり，不参加により不利益を被ることは一切ないこと，調査は無記名であり匿名性が確保されること，入手した情報は本研究の目的以外には使用しないこと，安全な方法でデータを管理し成果発表を行うことを研究説明文書に記載した．回答者は，web アンケートの最初に同意のチェックを行い回答した.

【結果】1483 人にアンケートを依頼し，359 人の回答が得られた(回収率 24.2%)．回答者の看護師経験年数は 11 年目以上(73.7%)が最も多かった．看護研究に取り組み感じた困難は「研究時間の確保」(46%)，次いで「研究の難しさ」(28.4%),「研究と業務・家庭生活との両立」(15.1%)であった．特に,「研究と業務・家庭生活との両立」を困難と選択した群とそうでない群では,「研究活動を行う時間をどのように確保したか」に有意差($p<0.015$)が認められた。一方，研究時間を「全て個人の時間」と回答している者は,「研究と業務・家庭生活との両立」が一番困難と感じる傾向にあった. 今後の看護研究実施への意向は「取り組みたくない」(74.5%)との回答が多く，その理由は【研究に費やす時間の不足】【研究実施による心身の負担】【業務との両立困難】の順に多かった．今後も研究に取り組みたいと回答した人は，研究活動時間をすべて業務時間内に確保し，また，学術集会で発表する傾向にあった.

【考察】看護研究に取り組む上で，研究時間を確保すること，研究のプロセスを理解し取り組むことが課題であると分かった．研究活動と業務および家庭生活との両立が困難である要因が，全て個人の時間を使用した研究活動であったことから，業務時間内での研究活動が保証されておらず，私的な時間を研究活動に当てなければならない状況が家庭生活を圧迫していると考える．回答者の看護師経験年数は 11 年目以上が 7 割強を占めていることから，看護業務および家庭における重要な役割遂行に研究活動が加わり，さらに，研究の難しさが研究を進める障害となり，心身に負担を生じていると考える．このことが，研究活動の意欲低下につながっていると推測される.

研究活動の時間を業務時間内に確保できる場合，または，学術集会で発表した場合に，今後も研究に取り組みたいと回答する傾向にあることから，研究を業務の一環としてその活動時間を保証すること，取り組んだ研究が実績として認められる場で発表する機会を設けること，および，研究プロセスに沿った指導をタイムリーに受けられるといった環境を整えることが，臨床で研究を行うために有効な支援であると考える.

【結論】

- 看護研究に取り組む上での課題は「研究時間の確保」「研究の難しさ」「研究と業務・家庭生活との両立」であった.
- 業務時間外に研究活動を行うことから，研究と業務・家庭生活との両立に困難を生じていた．さらに，研究の難しさも加わることで心身に負担を生じ，研究意欲の低下につながっている.
- 臨床で看護研究に取り組むために「業務として研究活動時間を保証する」「研究プロセスに沿った指導をタイムリーに受けられる」「学術集会で発表する機会を設ける」といった支援が有効と考える.

【利益相反】本研究は 2023 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域研究助成を受けて実施した.

# 民生委員・児童委員が捉える認知症の早期発見, 早期受診に向けた支援

志賀木綿子[1)]，谷口憲央[1)]，原　等子[2)]

1）総合リハビリテーションセンターみどり病院　2）新潟県立看護大学

キーワード：民生委員・児童委員，認知症早期対応，認知症疾患医療センター，認知症初期集中支援チーム

【目的】当院は認知症初期集中支援チームの受託を受けているが，介入時には認知症に伴う行動心理症状が顕著であることが多い．一方，民生委員・児童委員（以下，民生委員）は「福祉に関する困りごとを抱える住民を把握し,関係機関につなぐ」者として，地域の高齢者等を支援する中で認知症を疑われる人や認知症の診断を受けた人など前認知症状態や認知症初期の対応をすることが増え，対応に苦慮しているのではないかと推測する. そこで,民生委員の認知症の人へのイメージや対応の困難状況等を把握し,相談機関や医療機関等との連携についての課題を明らかにすることを目的とした.
本研究は所属病院の倫理審査委員会の承認を経て行った（承認番号　2023-007）.
【方法】調査対象者は，A 市内の 76 地区，民生委員の 1,375 名とした．調査は無記名自記式の質問紙調査を 2023 年 12 月から 2024 年 1 月に行った．調査の趣旨と倫理的配慮について書面および口頭で A 市民生委員児童委員連絡協議会に説明し承認を得て，各地区民生委員に直接説明していただき了解を得てから各地域定例会議にて配布した．回答は，記入済みの調査票を回答者自ら個別に封入し，各地域の代表者が集めて研究責任者宛てに直接返送した．調査協力の自由意思を担保するため回収時に調査票の無記入による調査への不同意も可とした.
【結果】1,210 名から回答が得られた（回収率 88%）．回答者は男性 29.3%，女性 58.7%，民生委員 1 期目 25.7%，2 期目 32.0%，3 期目 17.9%，4 期目 23.4%で，年代は 60-70 代が 86.6%を占めていた.「支援している地域住民の中で認知症かもと感じたことがある人がいる」は 61.7%であった．認知症サポーター養成講座は 44.4%が受講済みであった．受講回数は 1 回 55.9%，2 回以上 43.4%であった.『認知症の人に対する回答者の今の気持ち』の肯定的な側面は,「認知症の人の意思の尊重をしたい」は 95.0%,「近所の人等に認知症の人のことを知らせる必要がある」88.4%,「認知症の人が身近にいたら手伝いたい」77.8%,「周りの人の手を借りながら自宅での生活を続けさせたい」は 57.0%であった．否定的な側面は「認知症の人とどのように接したらいいかわからない」が 50.6%,「認知症の人が何をするかわからないので怖い」34.5%,「できるかぎり関わりたくない」25.9%,「家族が認知症になったら近所の人にあまり知られたくない」15.9%であった.『地域住民の認知症に関する相談機関』の認知は,「認知症初期集中支援チーム」17.4%,「認知症疾患医療センター」13.4%であった．これらの相談機関に今後,「相談してみたい」人は 62.9%であった．認知症サポーター養成講座受講の有無での否定感は「認知症の人とどのように接したらいいかわからない」が受講有で 34.6%，無で 63.4%,「何をするかわからないので怖い」が受講有で 27.2%，無で 40.3%であった.
【考察】認知症の早期発見・早期受診により適切なケアを開始（早期対応）することは，周辺症状の軽減，家族の介護負担軽減など認知症の人と家族の生活の維持・向上に貢献することが期待されている（杉山，2013）.民生委員の認知症サポーター養成講座受講者は 4 割程度で，認知症の人を尊重したい気持ちは高いが, 認知症の人との接し方がわからない人は半数おり, 認知症の人が怖い, 知られたくないという人もいた. 適切な理解, 対応のためにも民生委員の認知症サポーター養成をすすめていく必要がある. そうすることで, 認知症が疑われる人に出会ったときに適切な対応ができ，その後の機関との相談や連携がしやすくなると思われる．しかし，現状では「認知症初期支援チーム」「認知症疾患医療センター」の存在を知らない民生委員が多かった．その一方で,相談してみたいと感じている人は 6 割以上もいた．専門機関として早期から認知症の人や家族に介入し安心して暮らせる支援を行うこと，住民が認知症を怖がらず，助けあえる地域づくりを目指していきたい.
【結論】認知症に備えていくためには，地域の中で要となる民生委員との協力・連携により早期発見・早期受診・早期対応することが必要である．民生委員の認知症への理解を深め，各機関との連携，対応など見える化したシステムを提示し，安心できる相談体制を構築し，住民や地域全体で認知症になっても終わりではないと思える地域づくりを目指したい.
【利益相反】2023 年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究助成を受けて実施した.

# 看護師の退院支援モデルの活用の効果と課題

大澤寿子[1)]，尾澤麻美[1)]，丸田由美[1)]，関睦美[2)]
1）新潟県立柿崎病院　2）新潟県立看護大学
キーワード：退院支援，教育，看護師

【目的】地域医療を担うA病院の入院患者は後期高齢者が約8割と多く，退院後に介護・福祉サービスの見直しが必要とされ，退院支援を行う看護師の役割は大きい．しかし，退院支援の経験には差があり，統一した退院支援のために，A病院では，2020年に東京都退院支援モデルを参考に「A病院退院支援モデル」を作成した．そこで，本研究では「A病院退院支援モデル」の効果と課題を明らかにする．

【方法】A 病院に勤務する病棟看護師と外来看護師を対象に半構造化面接を実施し，対象ごとに逐語録を作成した．データ分析では，「A病院退院支援モデル」の活用場面，退院支援を行う看護師への効果，今後の課題を表す表現を抜き出しコードとした．意味内容が共通するコードを集めてサブカテゴリー・カテゴリー化を行った．倫理的配慮では，研究目的，内容，非協力の場合でも不利益を被らないこと．匿名性の遵守，学術学会で発表することを説明し，協力が得られた対象者には同意書を記載してもらった．本研究は所属機関の倫理審査委員会の承諾を得て実施した．

【結果】研究協力者は病棟看護師21人（平均年齢44.6歳，平均経験年数21年），外来看護師11名（平均年齢46.2歳，平均経験年数19年）であった．分析の結果，病棟看護師の「A病院退院支援モデル」の活用場面は 26 コードから【必要な時期に必要な支援が行えているかのチェック】や【退院支援方法がわからない時】等の4カテゴリであった．看護師への効果は32コードから【退院調整が確実に行える】や【他職種と連携が図りやすい】等の4カテゴリであった．今後の課題は36コードから【退院支援に関わる全職種が活用しチェックすることで，各職種の支援状況が分かる】や【退院支援に躓いた時に活用】等の 4 カテゴリが抽出できた．外来看護師の「A病院退院支援モデル」の活用場面は13コードから【入院中の退院支援内容を振り返るために活用】や【外来からの入院時に患者と家族の気持ちを把握するために活用】等の 3 カテゴリ，看護師への効果は6コードから【退院後の外来通院中の支援が見えやすくなった】等の2カテゴリ，今後の課題は13コードから【患者支援がスタッフによる差がなく強化されると良い】や【退院支援の効果がフィードバックされることを期待】等の6カテゴリが抽出できた．

【考察】「A病院退院支援モデル」を使用することで，病棟看護師は退院支援の進捗状況の把握と看護師の経験による差が影響することなく適切な介入時期に支援ができていた．外来看護師は病棟での退院支援状況の把握に活用し，外来看護に繋げていこうとする姿勢がみられた．病棟と外来の看護師が，連携を図ることで入院前から退院後までの患者と家族の状況が継続的に把握できていたと考えられる．しかし入院中の退院支援に関わる全職種との情報共有には課題があり，「A病院退院支援モデル」の活用方法を見直していく必要がある．

【結論】「A 病院退院支援モデル」を活用した病棟看護師の活用の効果は，【退院調整が確実に行える】等の4カテゴリ，今後の課題は【退院支援に関わる全職種が活用しチェックすることで，各職種の支援状況が分かる】等の4カテゴリであることが明らかとなった．また，外来看護師の活用の効果は，【退院後の外来通院中の支援が見えやすくなった】等の 2 カテゴリ，今後の課題は【患者支援がスタッフによる差がなく強化されると良い】等の6カテゴリであることが明らかとなり，「A病院退院支援モデル」を活用した看護師は，適切な時期に必要な支援を行うことができていたが，退院に関わる全職種での活用には課題があることが示唆された．

【利益相反】2023年度新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究助成を受けて実施した．

令和６年度
公立大学法人新潟県立看護大学
看護研究交流センター 活動報告書

令和７年５月 発刊

発行　公立大学法人 新潟県立看護大学 看護研究交流センター
〒943-0147　新潟県上越市新南町 240 番地
TEL・FAX　025-526-2822